

Japan Hanggliding Federation

JHFレポート

2005年
冬号

社団法人 日本ハンググライディング連盟 発行

バックナンバーは
ウェブサイト▶ <http://jhf.skysports.or.jp/>



1



2



3



4



5

■JHF3月通常総会を3月10日に開催。

JHF3月通常総会を、3月10日に東京都羽田空港ターミナルビル「ビッグバード」ギャラクシーホールで開催します。予定の議案は「2004年度補正予算の決定について」「2005年度事業計画の決定について」「2005年度収支予算の決定について」「定款改正の決定について」「役員選挙による選任について」です。傍聴をご希望の方はJHF事務局にご連絡ください。また議案へのご意見はJHF正会員(各都道府県連盟)にお寄せください。

■教員更新講習会を実施。一般聴講も歓迎。

10月4日から7日まで長野県大町市木崎湖で、2004年度JHF教員研修検定会と同時に教員更新講習員(JHF教習検定委員会・安全性委員会の専門委員)の研修会を実施しました。この教員更新講習員が早速活動を開始。11月13日・14日の2日間、福島県東和町で「第1回JHF教員・助教員更新講習会」を開き、教員・助教員、一般聴講者(講義のみ)合わせて35名が参加しました。次回は1月27日から30日まで、埼玉県と東京都(日によって会場が変わる)で開催。お気軽にご参加ください。*6ページ・19ページ参照

写真1:2004年度教員研修検定会。受検者のグランドハンドリングを採点する教習検定委員と教員更新講習員たち。
写真2:木崎湖上空に向かって飛び立った受検者。ピッチ、ロール、翼端折りがきちんとできるかチェックされる。
写真3:第1回JHF教員・助教員更新講習会。笹川スポーツ財団の助成金(SSFスポーツエイド)により実施。

■JHFモーターパラグライディング選手権、終了。

10月16日・17日の2日間、群馬県新田郡尾島町で「第8回JHFモーターパラグライディング選手権」を開催しました。33名のMPGパイロットが参加して3タスクで技を競い、東京都の関口伸夫選手が再び選手権を勝ち取りました。*4ページ参照

写真4:競技前の選手ブリーフィング。今日のタスクは…。

■ハンググライディング日本選手権、成立。

10月24日から30日まで、福岡県浮羽郡田主丸町で「2004ハンググライディング日本選手権 in 耳納」を開催。58名が参加し、7日間に4タスクが成立。18年前に同エリアで惜敗した外村仁克選手が、今度はガッチリ日本選手権をつかみました。*2ページ参照

写真5:21年ぶり、二度目の「日本一」となった外村選手。

任期満了に伴いJHF役員選挙を行います。

JHFを運営している現役員(理事・監事)の任期が2005年3月に満了するため、3月10日の通常総会の場で、次期役員選挙(投票)を行います。12月17日に選挙管理委員会により選挙公示が為され、1月31日が立候補の締切日です。立候補をお考えの方は、手続きをお急ぎください。詳細はJHF事務局に問い合わせ、またはJHFウェブサイトの選挙のページで。立候補者公示は2月10日に同ページ上で行います。

JHFレポート 秋号

P2-ハンググライディング日本選手権報告 P4-JHFモーターパラグライディング選手権報告 P5-2004年のランキング勝者たち P6-教員研修検定会・教員更新講習員研修会報告/新教員のひとこと/教員・助教員更新講習会報告 P7-もっと楽しくハンググライディング〈2〉/モーターパラの安全対策について P8-正会員だより 長崎県ハング・パラグライディング連盟 P9-正会員情報 P10-委員会の動き P11-2005年は無事故で楽しく/理事会ダイジェスト/JHF共済会案内 P13-@sky

JHFレポートはJHFフライヤー会員登録者にお届けしています。
□今年度は季刊
2004年度に限りJHFレポートは年4回の発行になりました。

外村仁克、21年ぶり日本一!

2004ハンググライディング日本選手権 in 耳納

文&写真 JHF広報出版部 松田 保子

10月24日から30日まで、福岡県浮羽郡田主丸町耳納連山一帯で「2004ハンググライディング日本選手権 in 耳納」を開催した(財団法人日本航空協会公認、JHF主催、福岡県ハング・パラグライディング連盟主管)。前年は残念ながら不成立。今年こそは頂点を!と、日本一の栄誉を求め、58名のパイロットが耳納の空で熱戦を繰り広げた。

■10月24日 まずは板垣がリード。

いよいよハングパイロット日本一決定戦の幕開け。福岡県南西部、広大な筑紫平野の南に立ち上がる巨大な壁、それが耳納連山だ。東西に30キロ、高度差800m。その真ん中に位置するかんかけ峠フライトエリアに選手は続々と上っていったが、気象条件はどうもよろしくない。競技しても意味がないように思われたが、競技役員はコンディション好転に望みをかけた。前方を緩やかに流れる筑後川をまたいで南北にジグザグ飛行する33.3kmタスクを決定。

しかし勇んで飛びたくなる雰囲気ではない。暫く様子を見るか……そんな渋い条件の下、最近活躍が目立つ学生パイロット、豊田良平が粘りに粘って高度を上げ始めた。静から動へ突然の場面転換。ランキング上位の選手が動き始め、日本選手権四連覇を狙う大門浩二もテイクオフ。弱いリフトで旋回している豊田らに合流。我慢強く高度を上げ、永光秀明と2

機で走り始めた。一番遠い第4パイロンのあたりにできた雲が狙い目と判断したのだが、思ったほど上がらないまま折り返す。その後もたいしたリフトはなく、2機とも途中で降りてしまった。

一方、後続集団の9機は粘りつつ慎重に前進。第4パイロンでちょうどできた雲の下に入り雲底まで達した。その高さを大事に使って第5パイロン、そしてゴールへ。河川敷のゴールに到達したのは、板垣直樹、加藤実、鈴木博司、外村仁克、桂敏之、岡田伸弘、豊田、鈴木由路の8名。大門とともに優勝に最も近いと言われる選手、板垣が日本一の座に一步近付いた。が、蓋を開けてみるとミニム距離(10km)に終わった選手が多かったため、ゴールした選手たちもたいして得点をもらえなかった。1位の板垣が477点。10位の大門が23.6kmで290点。致命的な点差とは言えず先はまだ見えない。

■10月27日 大門が貫禄のゴール。

25日・26日は気象条件の不良で残念ながらキャンセル。

27日、4日目には青空が見えたが、予報どおり雲量が多い。強い風に吹かれながら小林泰寛競技委員長が45kmのタスクを発表。山に沿って飛んだ後、平野部の二つのパイロンに北上し、耳納の山裾に戻る。前半はリッジ沿いのスピード勝負だ。

高度を稼いでスタートを切り、一気に攻めないと遅れをとる。途中で回してい

たら置いていかれる。

14時、雲底まで上げて多くの選手がスタート。大門が先頭を切って突っ走る。続いて太田昇吾と永光。板垣と桂も続く。高速でリッジを往復し、平野に出る前の第3パイロンに集団で向かう。最初に大門と板垣がパイロンをとって山に戻った。やや遅れて永光も戻るが、その背後にはガグルができ、その一番上に桂がいた。永光は戻るに戻れず、山で弱いリフトを丁寧に拾って高度を上げ、平野の第4パイロン、片瀬橋へ。橋上空で弱いサーマルを掴み、風に流されながら再び山へ。

橋の弱いサーマルを見切った選手がボロボロ脱落するのを後目に、先頭集団は第5パイロンに向かって平野をグライドし始める。リフトは弱い強い追い風に後押しされて、7名がゴールに到達。ずっと先頭を走りチャンピオンの底力を見せつけた大門が1位。思い切ったショートカットコースで皆を驚かせた桂が2位。大沼浩、外村、板垣、永光、そして山本貢が続く。途中何度も「もうダメか」という場面に遭遇しながら天晴れなゴールだった。初日タスクと2本合計で板垣、桂、外村、大門、永光の順に。

■10月28日 外村が首位に浮上。

素晴らしい青空の朝を迎えたが、くっきりとした逆転層が見える。タスクは、リッジレースの後に平野の最遠パイロンに出て、山裾ゴールに戻る43.4km。



28日、できたてのガグルめがけてテイクオフする外村。



タスクボードを囲みGPSチェック。学生が多数参加。



27日、本部でGPSデータ提出。中央がトップの板垣。



かんかけ岬のテイクオフ地点を裏側(南側)から見る。

早出の選手がステイできるようになったところで、どっとテイクオフした選手たちがジワジワと大きなガグルを形成。大門、太田、永光は高度を上げ、ひとり気持ち良く山裏で上げていた松村貴博に合流。4機でスタートを切った頃、下の集団が高度を上げてきた。

今日を逃せばもう挽回のチャンスはないと、勝負に出た大門と永光は、ここで待たずに高速でリッジを飛ばす。リッジから平野部に出て、ほぼ一直線に突っ走った大門は、瞬く間にランディング。これで四連覇の夢は潰れてしまった。

一方、先行集団の動きについて情報を得た外村は、風の変化を察知しコースを修正。平林和行とともに最長の31.6kmを飛び、総合トップに立った。2位の板垣との点差は26点。

■10月30日 21年ぶりの日本一。

29日はキャンセル。夜になって雨。

そして30日、最終日。驚くほど視程が良く、後方の普賢岳や阿蘇内輪山がはっきり見える。最後のタスクは、南北にジグザグに飛ぶ29.6km。

北東の風が強く、テイクオフすると皆、前方の町上空に真直ぐ出て行く。外村は板垣のすぐ後に飛び立つ。高度を上げながら風に流されては戻って、また上げて……やがてスタート、永光と動き始めた。

向い風が強い第3パイロンから第4へは、きっちり雲底まで上げてから移動。第4から戻って上げ直そうとしたときには既にリフトなし。そのまま追い風で流しながら弱いリフトを拾っていく。しかし、あとワンサーマルあればというところで、まったくリフトがなくなり、2機で仕方なくファイナルグライド。途中でどんなリフトでもひっかけることができ

ば、ゴールできたかもしれないが、約2km手前でランディング。永光はもう少し進んで970m手前で力尽きた。

この日ゴールで笑ったのは、第4から山に戻って上げることでできた岡田と野間靖弘の2人だけ。板垣もゴールに到達できず、手練の外村が実に21年ぶり二度目の「日本選手権者」となった。18年前、耳納で開催の日本選手権で、最終日に土手を越えられなかった外村は、田中栄一に僅差で逆転され日本一を逃した。「あの土手には18年前の僕の拳の痕が今もある」と皆を笑わせた外村に、選手も役員も大きな拍手をおくった。

■若いパイロットの活躍に期待

こうして、2004年のクラス1ハンググライディング日本選手権は無事成立した。これも、後援いただいた田主丸町・上陽町の、この1週間のためにたいへんな苦勞をして準備にあたってこられた地元パイ



最終日、みごとゴールした野間。他機の動きを見る。

ロットの、そして福岡県ハング・パラグライディング連盟のおかげだ。皆さん、お疲れさまでした。

18年前に同じエリアで競い合った選手のうち何人かは、外村を筆頭に今も現役バリバリの競技者だ。それはそれで素晴らしいが、今回嬉しかったのは、若い選手が活躍したこと。永光、鈴木、豊田、3人の学生選手が、百戦錬磨のベテランコンペティターにひけをとらずに戦って10位以内に入ったことは、同世代のパイロットを大いに勇気づけたはずだ。上位に食い込むことができなかった若い選手も皆、トップレベルの飛びを目の当たりにして、競技に対する考え方、フライトそのものについても「何か」をつかんだように思える。この経験を成長のエネルギーに変換して、もっと上手く遅くなってほしい。

2005年のクラス1日本選手権は、ゴールデンウイークに岩手県の遠野で開催する。外村の次に日本一の栄誉を手にするのは、誰だろうか。(文中敬称略)

＊田主丸町のシンボルは河童。河童の顔の形に作られたJR田主丸駅の駅舎をはじめ、町中に河童がいる。遠野もまた、民話の主人公、河童があちこちに姿を見せる場所。さて、2006年の開催地は？



前列左から大沼、桂、永光。後列左から板垣、外村、大門。



女子トップ3。左から加味根、岡田、澤田。

成 績

[総合]

1位	外村	仁克	和歌山県	2014点
2位	板垣	直樹	茨城県	1945点
3位	大門	浩二	茨城県	1802点
4位	桂	敏之	茨城県	1778点
5位	大沼	浩	茨城県	1715点
6位	永光	秀明	千葉県	1691点
7位	山本	貢	茨城県	1581点
8位	鈴木	由路	東京都	1574点
9位	岡田	伸弘	静岡県	1553点
10位	豊田	良平	千葉県	1540点

[女子]

1位	岡田	明子	静岡県	1223点
2位	加味根	あかり	鳥取県	1030点
3位	澤田	ほむら	神奈川県	985点

耳納エリアの情報は、フライング耳納のサイトで。<http://www.i-love-sky.com/mino/>

関口伸夫、再び勝利!

第8回JHFモーターパラグライディング選手権 in 尾島

文:一ノ宮 邦雄 写真:星野 納



選手ブリーフィング。須藤競技委員長がタスクを説明。

10月16日(土)、17日(日)の2日間、群馬MPGスクールエリアにおいて、第8回MPG選手権が実施されました。

今回の大会会場は、鶴が舞う形の群馬県の首の位置にあたる新田郡尾島町です。古くは、徳川氏発祥の地として有名であり、近年では世界の飛行機王、中島知久平を輩出した町です。また、毎年各国のトップフライヤーが集い、RC航空ページェントも行われています。そんな空にゆかりの深い場所で、私たち33名の選手が日頃磨いてきた技を競い合いました。

初日1本目のタスクは、60分セットタイム&シークレットパイロン&ターゲット。スコアリング方式が前回までと変わって、より高い着陸精度が求められるようになりましたが、エンジンカットしてのランディングアプローチに慣れていない選手はターゲットをはずすことも。また、関東平野のど真ん中に位置しているためか、地表と数十メートル上空では風向が異なり、それで思いどおりのアプローチをとれなかったこともあります。そんな状況で、1本目のトップになったのは、ベテランの五十嵐選手でした。2位は佐々木選手、3位は中山選手。

続いて2本目。シークレットパイロン&ダーツ(タオルをターゲットに投下)競技では、白石選手が1位になり、2位は太田選手、3位は佐藤選手。2本合計で五十嵐選手が首位に立ちました。

関東平野の素晴らしい風景を見ながら



いざテイクオフ。狙うはもちろんトップの座。

競技を楽しむことができた一日でした。私は、はっきり確認できませんでしたが(あれかな?と思われる山はありました)浅間山の噴煙を見たという人もいました。夜は、コミュニティプラザ東陽会館でウェルカムパーティーを開いていただき、地元の皆様と大会役員の皆様に大変良くしていただきました。

翌日も天候に恵まれ、強風のためしばらくウェイティングした後に競技が始まりました。タスクは40分セットタイム&シークレットパイロン&ターゲット。優勝に最も近い五十嵐選手を抑えて、関口選手が1位に。2位は久保田選手、3位は宮崎選手。この1本が決め手となり、関口選手が逆転優勝、再びMPG選手権を手に入れました。

今大会の競技内容は、精度を重視したものでした。正確な時間で離着陸する。正確に見てくる。正確に指定点に着陸する。指定された場所に正確に物を投下する。どれも基本的なことですが、それだけに日頃の訓練の成果が出る競技ばかりでした。

競技ではありませんが、2日目のウェイティングのとき、大会役員の粋なお計らいで、即興のグランドハンドリング大会を実施しました。風待ち等をしている時間、観客や選手を楽しませることができ、大変良かったと思います。また、関東一円の業者さんがブースを構え、フライトギアの紹介やメンテナンス等をやっています



選手と役員全員集合。楽しい2日間だった。



質問が飛び交うメーカー&ショップのブース。

た。MPGは天候に左右されやすいスポーツです。如何に待ち時間を楽しむかによって、これからの大会も変わってくるのではないのでしょうか。

今回、2日間に3本のタスクが成立しました。役員のお話では、プレ大会も含めて今まで不成立にならなかったJHFの選手権大会はMPG選手権だけだそうです。この記録をこれからも更新していくために皆さんで盛り上げて(天候次第のところもあるけれど……)より良い大会にしていきたいものです。



前列右から優勝の関口、久保田、五十嵐、後列右から佐藤、角田、一ノ宮各選手。

成績

1位	関口 伸夫	東京都	1562点
2位	久保田賢一	千葉県	1527点
3位	五十嵐亮弥	山形県	1500点
4位	佐藤 賢治	北海道	1449点
5位	角田 長司	群馬県	1441点
6位	一ノ宮邦雄	神奈川県	1416点
7位	宮崎 明生	東京都	1411点
8位	今瀬 和憲	茨城県	1372点
9位	佐々木克夫	宮城県	1355点
10位	堀川 弘三	群馬県	1320点

MPG教員研修検定会を実施

第8回MPG選手権では、MPG教員研修検定会も行いました。受検者は競技に参加し模範飛行を行う能力を披露。また、競技が無事終了した翌日に、安全を主とした研修と学科検定を受け、6名が合格。MPG教員技能証を手にするための第一関門をクリアしました。各都道府県連盟の推薦を受けた後、技能証申請の予定です。



研修会で語る補助動力委員会の山崎勇光委員長。

2004年のランキング勝者たち

ハンググライディングシリーズ／スポーツパラグライダーシリーズ／ジャパンリーグ

10月末開催の「ハンググライディング日本選手権 in 耳納」、年末の「スカイグランプリ in ASAGIRI」で、ハングとパラの2004年ナショナルポイント競技会がすべて終了し、各ポイントシステムの勝者が決定(Jリーグは暫定)した。

2004年は大きな自然災害が数多く発生した年だった。台風の影響でフライトできなかった大会もあり、パラグライディングのジャパンリーグは国内では4大会のみの成立。またスポーツパラグライダーシリーズ(SPS)は、非常に残念なことにゼロカップのみだった。ハンググライディングシリーズは7大会が成立したが、パラのアスリートにとっては不完全燃焼の年だった。2005年が競技条件に恵まれるよう、大きな災害が起きないように祈りたい。また、さらに多くのパイロットが競技に参加し、ナショナルポイント大会がもっともっと賑やかになるように。

■HGシリーズ

□総合上位者

1位	大門 浩二	茨城県	214.19
2位	板垣 直樹	茨城県	212.82
3位	外村 仁克	和歌山県	201.97
4位	大沼 浩	茨城県	188.19
5位	永光 秀明	千葉県	185.76
6位	桂 敏之	茨城県	177.28
7位	鈴木 博司	岐阜県	171.45
8位	平林 和行	千葉県	166.90
9位	村松 学	茨城県	166.58
10位	鈴木 由路	東京都	162.69

□女子上位者(順位は総合)

24位	岡田 明子	静岡県	123.91
49位	井手 有生	兵庫県	51.19
62位	谷古宇瑞子	栃木県	34.58



HGシリーズ1位

大門 浩二

DAIMON Koji

シリーズ優勝は、大会の一本一本のトップを目指した結果が積み重なって出てきただけであって、特に意識はしていませんでした。

トップは、取りたいというモチベーションを持ち続けていかないと無理ですし、気持ちだけじゃなく、頭の勉強とか技術的な練習、グライダーの調整も併せてしていかないとだめです。自分の苦手な点を克服する、スピードレースで自分の持ち味を常に出す、気象条件の判断の能

力を高めていくことの三点は、常に思っていることです。大切なのは、普段の飛びの中でサーマルの存在をいち早く見つけること。そのためには、いかに細かな現象をたくさん捉え、総合的に分析して頭を回すかが、一番重要だと思います。

今年は自分にとって充実した一年でした。機体を持ち換えた後の大会で連続優勝できたことは自信にもなりましたし、嬉しかったです。ただ日本選手権は四連覇できず残念です。過去に四連覇を成し遂げた人がいませんからね。

今後の目標は、世界選手権で入賞して、表彰式でみんなの前に呼ばれることです。それを目指して今後とも頑張っていきたいです。



HGシリーズ女子1位

岡田 明子

OKADA Akiko

女子1位になったものの、総合24位というランクは、自分としては前年よりもなかなか成績が上がらないと本意です。毎年総合20位以内に入れたらと思っているのですが、最近では若い人も上手いですし、難しいものです。

いつも心がけようとしているのは、今までの自分より速く飛ぶ練習をすること、いかに効率良く上げるにはどうしたらよいかを考えながら飛ぶことです。大会で気を集中するには、予め準備できることは準備しておくことが大切。機体の調整はもちろん、初めて飛ぶエリアは地図をよく見て、ある程度パイロンがどこにあるのかを把握しておくことが大事です。

ハングを始めて20年になろうとしているのですが、これだけ続けているのは、無理せずに危なくないように飛んできたからだろうと思っています。自分のできる範囲で大会に参加して飛ぶのは楽しいです。大会の時しか会えない人達に会えるのも大会での楽しみの一つです。

2005年は2004年のランキングより上を目指したいです。そして、より多くの女性の方に、大会にたくさん参加してほしいです。

■スポーツPGシリーズ(SPS)

□上位者

1位	成山 基義	大阪府	533.3
2位	森山 政男	高知県	373.9
3位	真鍋 務	兵庫県	373.3



SPS-ゼロカップより。左から森山、成山、谷本各選手。

3位	谷本 修	大阪府	373.3
5位	栗本 章弘	京都府	324.8
6位	縄田 裕之	鳥取県	259.7
6位	美甘 頼昭	鳥取県	259.7
6位	伊沢 正純	鳥取県	259.7

SPS1位

成山 基義

NARIYAMA Kiyoshi

パラグライディングを始めたのが4年前で、2004年の3月にパイロット証を取得したばかりです。大会はそんなに出ていないので、SPS優勝は嬉しいのひとことです。

F1大会に最初に出て、やっていけるのか不安でしたが、ゼロカップで優勝できて手応えを感じたので、来年も大会に参加して上位に名を連ねたいですね。

普段から安全第一で、高く、長くフライトすることを目標としています。自分のモットーは、常に人より先に上がって先に移動するということです。上げ切ることにはこだわらずに、走れるタイミングで走ることです。ただ、悪いタイミングでテイクオフして何度も後悔したことがあるので、飛びたい意識をいかに抑えられるかが、今後の課題だと思っています。

パラグライダーは、今の自分にとって離れられない存在になっています。また大会のみならず、国内・海外ツアーにも参加したいです。

まだパイロット一年生で大会の経験と少ないので、まずは挑戦することですね。始まったばかりなので、負けに怖じけずに上へ上へと目指して頑張っていきたいです。

■Jリーグ(インタビューは次号で)

□ワールドリーグ

1位	小幡 洋三	愛知県	116.1
----	-------	-----	-------

□ナショナルリーグ

1位	若山 朋晴	静岡県	3894.3
----	-------	-----	--------

2004年度教員研修検定会・教員更新講習員研修会の報告

10月4日(月)から7日(木)まで、長野県大町市木崎湖で「2004年度教員研修検定会」を実施した。各地でパラグライダーの教習活動をしている助教員11名が参加、4日間みっちり研修と検定を受け、1名が全検定に合格し教員技能証を手にしたことになった。今回はハンググライダー助教員の参加はなかった。

また、教員技能証更新時の講習会参加が義務となったため、「教員更新講習員研修会」を同時に実施。教員更新講習員として活躍することになる12名が参加し、教員検定の内容と合否判定基準等を研修した。今後、この教員更新講習員(教習検定委員会と安全性委員会の専門委員)が、教員更新講習会をはじめ、教員検定を受ける助教員のための事前講習や、各地区の事故調査活動にあたる。

■研修・検定の内容

気象条件によって時間割りを変更しながら、外部の講師も招いた研修講義と各検定を実施。木崎湖エリアで開催中のJHFマヌーバーキャンプに合流し、ピッチ、ロール、翼端折りの実技検定も行った。

□講義

・パラグライダーの特性

講師:赤坂剛史(パラグライダー、柔軟翼研究分野における国内唯一の工学博士。パラグライダーの飛行特性及び運動方程式を発表。)

・リスクマネジメント

講師:泉秀樹(保険代理業。牧田商会、神奈川県ハング・パラグライディング連盟所属)

・ツリーラン救助とガイディング

講師:近藤謙司(登山ガイド。アドベン

チャーガイズ所属。チョモランマ冬季北壁最高地点到達者。「パラグライダー(同朋社出版)」著者。

・機材と安全

講師:岡 芳樹(JHF安全性委員)

・事故報告について

講師:下山 進(JHF教習検定委員長)

・安全指針について

講師:関谷暢人(JHF常任理事)

・緊急用パラシュートの活用

講師:中台 章(JHF教習検定委員)

□検定

・飛行実技:生徒に正しく教えられるか、模範飛行ができるか。

・教習実技:生徒に飛行理論等をわかりやすく説明できるか。

・学科:指導者として必要な知識を持っているか。

新教員のひとこと



パラグライダー教員

a , T I

TONOUZUKA Hiroki

中学校時代にパラグライディングB級を取得。その後パラから遠ざかって

いたが、大学時代に再びのめり込み、現在は茨城県のSET茨城のインストラクター。

□教員検定を受けた理由は?

スカイスポーツをもっと広めていくために教員という立場に立ってやっていきたいと思いました。新米のイントラですが、僕なりに楽しく教えられたらと思っています。

□教員研修検定会の感想は?

和やかな時とビシッと締める時の差を感じました。検定員の方も和やかに話をしてくださるのですが、試験の時にはさすがに皆

さん真剣になって、かなり緊張しましたね。

□どのような教員になりたいですか?

楽しく、分かりやすく教えられる教員になりたいです。言葉にすると単純ですが、難しいことだと思っています。

□教員検定を受けてためにになったのは?

たくさんありますね。講義で、航空力学の見地からパラグライダーのメカニズムを教えていただきました。自分の中で曖昧な部分があったのが、図などでわかりやすく示していただき、しっかりと理解できたので良かったです。あとはツリーランとか山の中で何かあったときの最新の対処法というのも教えていただき、非常にためになりました。

□検定で難しかったことは?

講習の実技試験ですね。筆記試験やフライト実技は自分ができればいいのですが、講習というのは人と人が接する中で物事を教えていくわけですから、それを試験で

やるのは難しかったです。いかにわかりやすく伝えるかというのは、筆記試験と違って創造性を問われますから。

□安全という観点から講習生に特に教えたことは?

技術はもちろん、フライトに関する知識や判断力をしっかり身につけて欲しいです。飛ぶのは好きだけど勉強は苦手、という方もいると思いますが、自己責任でフライトするパイロットを目指す以上、安全フライトのための勉強は避けて通れません。風、機材、体調など、何かしら違和感を感じる時はそのまま飛ばず、今どういう状況になっているのか冷静に判断できる力を身につけてほしいです。

□講習生に一言

ランディングしたときに「今日も楽しく飛べた!」と思えるフライトをして欲しいです。パラの空を飛ぶ魅力とリスクのバランスをよく考えてフライトしてください。

福島県で第1回教員・助教員更新講習会を実施。

11月13日(土)・14日(日)の2日間、福島県安達郡東和町の戸沢住民センター・羽山フライトエリアで、福島県ハング・パラグライディング連盟の主管により、「第1回JHF教員・助教員更新講習会」を実施した。東北地区の教員・助教員に一般聴講者(講義のみ)、合わせて35名が参加した。

□13日の講習

開会式後、午前中にフリーフライトと講義、午後は講義のみを行った。講義内容は以下のとおり。

・自主規制

講師:下山 進 30分

・JHFの活動(安全フライトを目指して)

講師:金井 誠 1時間

・2003年・2004年の事故調査報告

講師:下山 進 2時間30分

・緊急用パラシュート

講師:中台 章 2時間

・リバック実技講習

講師:中台 章 1時間30分

□14日の講習

小雨の後のため、午前中はDHVのVTRとJHFマヌーバーキャンプのVTRを使い、キャノピーの挙動と対処、パラシュートの使用判断についての講習(講師:中台 章 2時間)を行い、午後はグランドハンドリング(スラローム)の実技確認を行った(2時間)。閉会式で、参加者に仮受講証明書授与して終了。

教員・助教員更新講習会は、ハング・パラグライディングのインストラクターに最新の教習技術と知識を身につけてもらい、スクーリングの安全性を高めるためにスタートした、JHFの新しい事業だ。



参加者と講師(右から中台、下山、金井各氏)。

飛行技術や機材の性能はどんどん進歩しており、安全な普及のために教員技能証更新時の講習会参加が義務になった。JHFでは参加者の負担をできるだけ少なくするため各地区での開催を計画している。(次回は1月下旬に南関東で開催。1ページ・19ページ「カレンダー」参照。)

JHF教員・助教員更新講習会は、笹川スポーツ財団の助成金(SSFスポーツエイド)により実施しています。

安全でなければ楽しくない

あなたのグライダーは大丈夫？

皆さんのグライダーは、確実に点検され、十分なメンテナンスがされていますか？ 仕事柄、各地のエリアにお邪魔します。エリアによっては、クラブ単位で活動していたり、学生同士で活動しているため、点検とメンテナンスが充分でないグライダーを見かけることがあります。

CG(重心位置)がずれていて、手の力を緩めると失速したり、左右のパテンカーブが狂っていて、いつも同じ方向にとられていたり。これは、比較的初級者のグライダーに見受けられます。これが、テイクオフ直後の不安定なときやランディングアプローチ中に起こったら、スタチン、クラッシュに繋がってしまいます。たった一回のスタチン、クラッシュで怪我をしたり、ほんのちょっと運が悪ければ簡単に命を落としてしまうのです。グライダー整備、点検の重要性を決して甘く考えないでください。

強度の弱い所に力が集中する

スクールが常駐しているエリアでは、初級者への対応はしっかりしているようです。しかしスクールを卒業したパイロットの中には、「自分は大丈夫」「あまり飛んでないから」「クラッシュしても壊してはいないから」と言って点検やメンテナンスを疎かにし、何年もオーバーホールをしていない方もいます。中には「お金がかかるから」と、凹んだり曲がったりしているパイプでそのまま飛んだり、大きく裂けたセルをガムテープで止めた

けで飛び続けている場合すらあります。確かに、穏やかに普通に飛んでいれば、飛んでいるのかもしれない。しかし飛行中に予期せぬ乱気流に遭遇した時やサーマルからはじかれた時に過大な荷重がかかるのは、よくあることです。

そんな時、あなたのグライダーは本当に大丈夫だと自信ありますか？

グライダーには、全体に、張り、曲げ、引っ張り、ねじれなどさまざまな力がかかっています。過大な荷重がかかった時には、強度の弱い所に力が集中します。一度や二度の飛行は大丈夫だったかもしれませんが、凹んだアルミやワイヤーなどは、経年変化とともに金属疲労が増して、いつかは破壊してしまうでしょう。

もっと注意深く点検していれば

最近の事故では、サイドワイヤーの付け根のキンクをアップライト取り付け側はよく点検していたのだが、セールの中のクロスバー取り付け部のキンクに気づかず、飛行中にワイヤーが破断してしまったケースがあります。また、ランディングクラッシュでアップライトを折ってしまい、交換したもののアップライトとベースバーをジョイントするコーナーのインナーチューブが破損していたため、飛行中にこのインナーチューブが破断して、アップライトとベースバーが外れてしまったという例もありました。

この事故が起こった時点では、事前の予測は困難だったかもしれませんが、もっと注意深く点検・オーバーホール等

をしていれば防ぐことができたのではないのでしょうか。

皆が安全に対する意識を高める

常にグライダーの状態を良好に保つこと、そして、何よりも今後同じような事故を繰り返さないため、もっともっと安全に対する意識を高めなければならないでしょう。

ショップやディーラー、インストラクターも聖徳太子ではないので、全てのパイロットに対して満足のいくケアはできないかもしれません。しかし安全に対する要望なら、皆さんはもっとわがままになっていいんじゃないかと思います。

また、業界関係のメーカーやディーラー、インストラクターも、もっと安全に対する意識を高めることが急務だと感じます。すでにそういった意識で対応されている所もありますが、日本全体で意識し直す時だと思います。JHFがどうか、うちのスクールはどうのと言ってる場合ではないでしょう。

個人個人と全体がともに安全をベースに楽しめる環境と仲間を作りましょう。(今回はちょっとお堅い話になりました。安全に対する意識をしっかりと持った上で、もっと楽しめる、そして役に立てる内容を書いていきたいと思いますので、お楽しみに。)

大門 浩二(だいもん こうじ) 1988年HG世界選手権初出場以来、国内外の大会で活躍し、日本選手権を三度獲得。04年HGシリーズ1位。トップ・エア代表。

モーターパラの安全対策について-3

飛行空域の制限について

JHF補助動力委員会
須藤 彰

日本の航空法では、ハンググライダー・パラグライダーは空中の浮遊物扱いです。極端なことを言えば、風に飛ばされていくゴミと変わらないのです。

しかし「それなら、ゴミはどこを飛んでいても不思議じゃないんだから、ハング・パラもどこでも遠慮なく飛べるんだ」と考えるのは、間違いです。空を飛ぶものは、互いの安全を守るために、ルールに従って飛行しています。ハング・パラも例外ではありません。

航空交通管制圏及びそれに接続する進入管制区内の特別管制区は全国に13ヶ所あり、原則としてこの空域を飛行することはできません。では、それ以外のところならどこでも勝手に飛べるかというと、

そんなことはありません。人や建物等の上を低空で飛ばないのは当然のこと。道路や線路にあまり近付かない、作物が育っている田畑に降りない(作物がなくとも私有地なので配慮が必要)、送電線のそばを飛ばない……と、相手に害を与える可能性のあるところで飛ばないのは常識です。我々はフライヤーだけの国にいるのではないし、誰かに傷害・損害を負わせていいはずはないのですから。

特にモーターパラグライダーは、山深いところではなく、人びとの暮らしの場に近いところでフライトしているので、より一層の注意が必要です。飛行空域だけでなく、エンジンを使って飛ぶものにつきものの騒音問題もあります。完全に

消音できない限り、誰にも迷惑をかけずにフライトするのは、不可能でしょう。だからこそ、ルールやマナーを守り、地域の人びとに敬意をはらいコミュニケーションする必要があります。

飛行空域の制限やフライトルールを知らないで起こしている問題も多くあるようです。フライヤー同士のコミュニケーションを深めるのは言うまでもなく、どこにも所属しないフライヤーへの「声かけ運動」も、同じく進めていく必要があります。

須藤 彰(すどう あきら) 1990年、独学でMPGを習得。95年にMPG初の東京湾横断飛行。03年、MPG距離飛行日本記録を更新。JHF補助動力委員。

正会員だより

長崎県ハング・パラグライディング連盟



海辺の猿葉山エリア。前方の小浜温泉までミニXCも可。



猿葉山の砂浜LDを上空から。前方は愛野の断層リッジ。



長崎県連主催のコンペティション。表彰式のひとコマ。



対馬・千俵蒔山は、安定した海風の開放感溢れるエリア。



日韓交流の横断幕と。韓国選手も参加したPG対馬大会。



琴平岳エリア。真正面に長崎空港、眼下にテクノパーク。

フライヤー相互の融和・団結と技術の向上を

理事長 小川 勝良

■長崎県連の規模

長崎県ハング・パラグライディング連盟は、JHFフライヤー会員110名(うち県連正会員66名)の小規模の県連であります。県内にはクラブなど7団体と、スクールが3校あります。特に去年発足した対馬市の「スカイクラブ対馬クラブ」より県連に10名の加盟があり、嬉しい限りです。また、大村市にも2003年6月に「おおむらパラグライダースクール(JHF登録スクール)」が開校し、県連のフライヤー増員に協力して頂きましたので、今後の活動に期待をしているところです。

■長崎県のフライトエリア

長崎県を地図で見ると島や半島が多く、一見してそれほど広いエリアではないことがわかりますが「狭いながらも楽しいエリア」を合言葉に、海上を飛ぶエリア、断層による安定したリッジ風のエリア、市街地真上のエリア、牧場のエリア、半島クロカンのエリア、ハウステンボス一望のエリアなど、会員の皆さんの努力で開拓できた個性溢れるエリアがいろいろあります。

現在フライトエリアとして定着しているのは、主に次の9箇所のエリアです。

- ・猿葉山エリア 南高来郡千々石町
350m 南西向きと北東向き
- ・八郎岳エリア 長崎市平山町
590m 西向き
- ・琴平岳エリア 大村市原町
300m 西向き
- ・小峰城エリア 東彼杵郡川棚町
250m 西～北向き
- ・弘法岳エリア 東彼杵郡川棚町
350m 北東向き

- ・隠居岳(かくいだけ)エリア 佐世保市三川内 600m 南東～北東向き
- ・上床(うわとこ)エリア 平戸市上床高原 320m 北向き
- ・川内峠エリア 平戸市川内町 260m 南西向き
- ・千俵蒔山(せんびょうまきやま)エリア 対馬市上県町 350m 西向きと北向き

■長崎県連の歴史

1983年4月にJHF地区連発足、九州地区の県連として長崎県も加入しました。1995年4月に、長崎県ハング・パラグライディング連盟発足、初代理事長に山口博史氏が就任。2000年4月より小川勝良が理事長として就任、その後、継続して理事長に推挙され、現在に至っています。

■県連理念

県内フライヤー相互の融和・団結と技術の向上及び安全なスカイスポーツの普及に力を入れています。それに伴い、長崎県連主催のパラグライダー大会や、安全に楽しくフライトすることをモットーにレスキュー開傘訓練やリパック講習会を開催しています。

■活動状況

長崎県連は以下のような県連活動を行っています。

- ・年一回の県連総会とその後のパラグライダー大会実施
- ・専門の講師を招きレスキューパラシュートの開傘訓練とリパックの安全講習の開催
- ・パラグライダーちぢわカップ・パラグライダー対馬大会の支援

- ・日本選手権への選手派遣
- ・韓国釜山市パラグライディング連盟との現地交流会と大会参加
- ・パラグライダー体験会の実施(2004年度内の開催を予定)
- ・九州パラグライディング選手権への参加と支援
- ・その他、近隣県連やクラブへの大会案内と県連便り発行など

■今後の活動目標

長崎県連の場合はフライヤー登録者が110名で、他の県連と比べ、少ないほうだと思います。限られた予算の中でいかに効果的な活動を行うかが課題です。新しいフライヤーを増やすために、パラグライダー無料体験会などの活動を少しずつ増やし、フライヤーの増員を計りたいと考えています。それに伴い、教員の養成も考えていきたいと思っています。

また長崎県連として今後、長崎国体が開催される際にパラグライダーの国体参加ができれば……と望んでいます。そのためには、まず長崎県連が長崎県体育協会に加盟しなければならないということがわかりました。しかし母体であるJHFが日本体育協会に加盟をしていなければ、長崎県連は長崎県体育協会に加盟しにくいのが現状のようです。JHFが日本体育協会に加盟し、長崎国体など公的な催しへの参加が実現することを希望し、今後の目標としています。

■長崎県連盟の連絡先

〒856-0019 長崎県大村市野田町52番地
小川方 TEL.0957-55-0654
E-mail:o-katu@muu.biglobe.ne.jp

正会員情報

■山形県ハング・パラグライディング連盟 [山形県連スカイフェスティバル開催]

11月21日(日)、「山形県連スカイフェスティバル」が南陽スカイパークで行われました。この日の気圧配置は冬型でしたが、徐々に緩み、穏やかな西風、力強いサーマルにも恵まれました。その後も西風が続くリッジソアリングのコンディションが夕方まで続き、2時間以上飛んだ方も。練習生もパイロットも、ハングもパラも一緒に和やかに楽しいフライトができました。

県内外から51人がエントリーしたシークレットターゲット競技では、ランディング場に賞品(または目録)が入った箱をばらまき、選手は思い思いのランディングをして、GPS・パラブーツ・ヘルメットなどを全員が獲得。さらに県内クラブが豚汁・肉まん・コーヒーなどのお店を出し、お祭りムードを盛り上げてくれました。

〔記:事務局 金井 誠〕



楽しく飛んで賞品も手にして、ニコニコ顔の参加者たち。

■埼玉県ハング・パラグライディング連盟 [県連主催フライヤー親睦会のご案内]

今回で3回目となるフライヤー親睦会の告知をします。

毎年、県内のフライトエリアを借りまして、県連としてフライヤーの交流の場を提供できればと開催しており、毎回、県内外のフライヤーに遊びに来ていただき、盛況な集まりとなっています。今回も去年と同じ、埼玉県秩父皆野町にある破風山エリアにて行います。内容は、県連普及委員会が中心となり準備を進めていますので、詳細が決まりましたら、県連会報や県連HPで告知第二弾をしていきます。多数の参加者が来られることを楽しみにしています!

開催日時:2005年3月6日(日)朝9時にエリアランディング集合

会場:埼玉県秩父皆野町 破風山エリア
フライト可能カテゴリー:パラグライダー(当日の天候によりフライトを判断)
内容:ランディングでのバーベキュー・講師による座学等を予定。

備考:当日の天候により、行事内容が変わります。雨天時は近くの施設を使って座学講習等をしたいと思います。駐車スペースに余裕はありますが、できれば乗り合いでの参加をお願いします。お問い

合わせは県連事務局まで。

埼玉県ハング・パラグライディング連盟
事務局 〒351-0014 埼玉県朝霞市膝折町
2-3-7 塩野富士雄方

TEL.048-464-8763(塩野)

f-shiono@nyc.odn.ne.jp

<http://www.saitama-hpf.com/main.htm>

〔記:理事長 渡辺竜幸〕

■石川県フライヤー連盟

[事故防止安全セミナー開催の報告]

2004年に死亡事故が多発した悲しい状況から、石川県フライヤー連盟は事故防止の一環とし、2回に渡って事故防止安全セミナーを行いました。

第1回は10月22日(金)と23日(土)の夜、鶴来町社会教育センターで「緊急パラシュート使用の心構えと使用方法について」のセミナーを行いました。緊急時の最後の手段である緊急パラシュートの使用法をメインに、スカイダイビングで多くの経験を持つ千田一博講師に、開傘時の注意点、開傘後の処理、ダウンブレン等について話していただき、実際のアクシデントを想定したシミュレータ上でのレスキュー放出体験等を実施しました。緊急パラシュートの知識を深めるための有意義なセミナーでした。

第2回、11月25日(金)、26日(土)のセミナーでは、2004年に発生した死亡事故に関する調査報告で、どの様にして事故が発生したか、その経緯を安全性委員会副担当であるJHF常任理事の関谷講師から話を伺いました。

第1回セミナーは午後7時からでしたが50人以上の参加があり、第2回も30人以上と、延べ80人以上のフライヤーに受講していただきました。これは皆さんの安全への関心度の高さを物語っており、安全フライトにさらに一歩近づいたと確信できたセミナーでした。

〔記:広報担当 倉 和彦〕



シミュレータで飛行姿勢をとりレスキュー放出体験を。

■大阪府フライヤー連盟

[メイヤーズカップ:大阪府選手権報告]

11月6日(土)と7日(日)の2日間、紀ノ川フライトパークで開催された第15回メイヤーズカップに、PG大阪府選手権を便乗

させてもらいました。メイヤーズカップといえば、ナショナルポイント大会(今のJリーグ)、F1、SPSと様々な内容で開催してきました。今回は、初心者から上級者が一緒に楽しめ、選手同士が知識、技術、戦術を話し合いながら交流を深めるという目的で競技が行われました。

競技内容は、技能が片寄らないように初心者から上級者までバラバラにして3人のチームを組み、シークレット&爆弾落とし、シークレット&ターゲット、デュレーションの3種類のタスクをチーム内で分担。3人の合計点で順位が決定するというもの。

両日とも好天に恵まれ、紀ノ川らしいトリッキーなサーマル条件で安全に競技が行われました。結果は、初日デュレーションで、いつもエリアで偉そうにしている某イントラ(私)より、ブッチギリで長く飛んだ所久保選手率いる「男前ぞチーム」が優勝。チーム中ただ一人の大阪府在住である張本選手がPG大阪府選手権者になり、大阪府連からの賞金3万円をゲット。その場でチームメイトの所久保選手とカルロス選手に1万円ずつ渡して山分けし「がめつい大阪人」の汚名を返上しました。

〔記:理事長 片岡義夫〕

■福岡県ハング・パラグライディング連盟 [大会の参加、協力のお礼と体験会]

2004年は、福岡県は大変騒がしい年でした。ハングでは、春に米山での学生選手権、秋に耳納での日本選手権を開催。パラでは、1ヶ月以上開催の皿倉山でのパラフェスタなど、1年を通して県内北から南まで、沢山の大会が開催されました。慣れぬことゆえ皆様にご迷惑をおかけしましたが、多くの方に好評を得て、どの大会も楽しんでいただけたと思います。日本全国より選手、役員、応援等に、ご参加、ご協力をいただき、ありがとうございます。

また、今年は県内各地でパラの一日体験を開催し、いずれも多くの方が楽しまれ好評でした。11月末の体験会は、鳥人の会(皿倉を飛ぶ色々なクラブの集まり)が中心になり、北九州市若松のグリーンパークで開催しました。市政便り等にて募集し抽選で当選された30人の体験者に



県内各地での一日体験会で多くの参加者が楽しんだ。

対し、メイン&サブインストラクター、フライト歴10年以上の名パイロットと、総勢20名の豪華なサポーターで行われ、とても和やかなムードの中、数秒ながら空中散歩を堪能していただきました。

2005年も大会に、フライトツアーに、福岡県へ是非ともお出かけください。

[記:広報担当 熊谷昭弘]

■鹿児島県ハング・パラグライディング連盟 【県連主催競技大会の報告】

10月31日に川辺郡大浦町の亀ヶ丘エリアにて「2004鹿児島県ハング・パラグライダー競技会」を開催しました。

当日の天候は早朝に雨模様だったにもかかわらず徐々に回復し、正午前後には絶好のコンディションとなり、約30名の愛

好者が集い南九州の秋空を舞いました。

後援いただいた地元大浦町から参加者全員に特産品が贈呈されるなどの心遣い、スタッフとして活躍された地元の方々のご協力に感謝いたします。

なお、上位入賞者は次のとおりです。

- | | |
|----------|----------|
| 1位 高松 孝太 | 2位 野村 和弘 |
| 3位 橋口 操 | 4位 伊藤 信行 |
| 5位 酒瀬川賢二 | 6位 佐尾 明広 |

[記:事務局長 田原嘉之]



秋空を楽しんだ大会参加者たち。

◆正会員事務局等の変更

□山形県ハング・パラグライディング連盟事務局変更→

〒999-2221 山形県南陽市柵塚1970-4

TEL.&FAX.0238-40-2149

E-mail:soaring@d3.dion.ne.jp

□神奈川県ハング・パラグライディング連盟 メールアドレス変更→

khpF1904@m12.alpha-net.ne.jp

□静岡県フライヤー連盟 仮事務局設置
→〒431-1407 静岡県引佐郡三ヶ日町大谷93-1

TEL.053-526-0015 FAX.053-526-0141

E-mail:sff@jpmports.com

□沖縄県ハング・パラグライディング連盟

メールアドレス変更→

spc-u-kojima@s5.dion.ne.jp

委員会の動き

安全性委員会(JHSC)

11月13日・14日の両日、福島県東和町において教習検定委員会と合同で教員更新講習会を行いました(5ページ参照)。

2004年秋冬は幸い重大事故が発生せず、事故調査を行わずに済みしました。5月19日に発生した山形県白鷹でのパラグライダー死亡事故については、警察の調査が終了した後にJHFとして調査を行う予定です。2005年こそ事故ゼロを実現できるよう願っています。[記:下山進委員]

教習検定委員会

10月4日から7日まで、長野県木崎湖で2004年度教員研修検定会を行いました。教員をめざす助教員と、教員更新講習員候補の方々が参加し、4日間みっちり研修と検定を受け、1名がパラグライダー教員として合格。また教員更新講習員に必要なノウハウを身につけていただきました。講師・参加者・委員の皆さん、ありがとうございます。

11月13日・14日には、福島県東和町の戸沢住民センターにおいて、安全性委員会と合同で教員更新講習会を開催しました。教員・助教員・一般聴講者、合わせて35名の方々が参加。前記の教員更新講習員による安全を主とした講義、グラウンドハンドリング実技の確認等を行いました。

教員更新講習会は、各地で行う予定です。次回は1月27日から30日まで南関東で開催します(19ページ参照)ので、ぜひご参加ください。教員・助教員以外の方も歓迎します。[記:下山進委員長]

制度委員会

2人の寂しい委員会です。委員をまだまだ募集中です。

現在、制度委員会では技能証規程の見直しと、特別委員会設置規程について検討中です。

技能証規程についてはパイロットの5km制限について解釈を統一するため、改訂案を理事会に答申する予定です。現行の5km制限は「離陸場所から」となっていますが、それを「離着陸場所から」とし、管理された着陸場所が5km以内にあれば、パイロット技能証でも10km、15kmのフライトが可能であるというものです。もちろん「管理された」とは安全対策が取られているということを意味します。

特別委員会とは現行の常置委員会で対応できない事柄を、理事会が臨時的に諮問する委員会のことです。特別委員会設置規程を作成し、ルールの下で活動していただくよう理事会に諮問する予定です。[記:小林秀彰委員長]

ハンググライディング競技委員会

10月29日に日本選手権の大会本部で委員会を開き、ルールブックの改定について検討しました。上位選手と下位選手の差が開いてきており、また下位選手が競技から離れる傾向にあるとの指摘があり、これを踏まえてルール改定案を決定。理事会承認を得て、2005年は改定したルールでハンググライディングシリーズの競技を行います。改定版ルールはJHFウェブサイト、HG競技委員会のページでご覧ください。

2004年のHGシリーズは、8大会のうち7大会が成立。ランキング上位に若手パイロットが顔を出してきました。最終戦の日本選手権ではトップ10に3名の学生選手が入る活躍ぶり。今後の頑張りが期待されます。

2005年も、恒例の正月大会、西富士ジャンクラシックからHGシリーズがスタートしました。皆さん、ぜひご参加ください。[記:峰岸正弘委員長]

パラグライディング競技委員会

この原稿を書いている時点では、あと

一戦を残していますが、今年のJリーグを振り返って見ると、これまで8戦が行われ、残念ながら3大会のみが成立し、合計3本のタスクが成立しました。非常に天候に恵まれなかった年でした。願わくば最終戦の朝霧大会が2本成立し、ナショナルポイントランキングに5本計上できることを期待しています。

また、3月にはブラジルで世界選手権が開催されます。Jリーグの最終戦が終了するまで日本チームのメンバーは決まらないので、現時点ではわかりませんが、このJHFレポートが発行されるときには決まっているはずです。日本チームに皆様の暖かい声援をお願いいたします。

次号では2005年版JリーグルールとJリーグ大会スケジュールを掲載できると思います。ホームページにも決定次第掲載しますので、そちらも適宜チェックしてください。

2005年に母なる大自然のお恵みがありますように。[記:岡芳樹委員長]

個人情報保護法対策特別委員会

2005年4月に施行される個人情報保護法の対策を立てるため、9月10日理事会で設置が承認された特別委員会です。9月14日に第1回会議を開き、委員会の役割、活動の内容と日限等を検討、主に以下のことを決定しました。

□委員会で扱うのは個人情報保護対策に限定する。

□個人情報保護に関する規程案を作成。

□同法の施行の下での問題点・課題を抽出する。

□2005年2月末の作業完了をめざす。

10月21日の第2回会議では、個人情報の第三者(JHF正会員やJHF共済)への提供について検討。その結果を12月8日理事会に答申しました。

現在、規程案について検討中です。

[記:金1 仁史委員長]

2005年は無事故で楽しく

JHF会長
朝日 和博

皆さんは新年をどこでどのように迎えたでしょうか。また昨年のフライトはいかがでしたか。私は晩秋、紅葉の終わった山肌を見た後、刈入れの終わったどこまでも続く田んぼの上を、遠くにある温泉を目差したミニクロカンが印象的でした。迎えが来るまでの間、温泉で温まったことが忘れられません。今年も楽しくのびのびと飛びたいと思います。

さて、例年春に事故が多く発生する傾向にあるようです。寒い冬が終わり暖かくなると、フライヤーの活動も活発になります。その頃はサーマルの活動も活発で

すので、充分に気をつけなければなりません。過去の事故を反省し、本年は是非とも無事故で、楽しい大空のスポーツを楽しんでいただきたいと思います。

昨年は共済会を立ち上げ、もしもの時に備えるようにしました。お陰さまで好評をいただいております。共済は利益を追求するものではなく、自分のために、みんなで支えあうものであります。まだ加入されていない方は、是非この機会に共済会に入ることをお勧めいたします。

JHFはパラグライダー、ハンググライダーが事故なく安全に楽しめるために存



2004年JHF-MPG選手権で挨拶する朝日会長。

在しているといつていいでしょう。各地でご活躍の多くの方々に支えられながらJHFは成立っております。全てのフライヤーと共に手を取り合って創造していきたいと思います。今年もご支援ご協力をお願い申し上げます。

理事会 ダイジェスト

■2004年度第3回JHF理事会

日時:2004年12月8日(金)14:30～18:00

場所:JHF事務局会議室

出席理事:朝日和博、荒井稔、伊賀隆一郎、下村孝一、関谷暢人、瀬戸口裕郎 出席監事:對馬和也 欠席理事:宮田富由 欠席監事:宮川雅博 議長:関谷暢人

□審議事項

1. 2004年度3月通常総会について

3月通常総会を3月10日に東京都羽田空港ターミナルビル「ビッグバード」ギャラクシーホールで開催することについて審議。賛成5、反対0、棄権0で上記日程に決定。

予定の議案は、2005年度事業計画の決定について、2005年度収支予算の決定について、役員の選挙による選任について。

2. 2005年度事業計画・収支予算について

2005年度事業計画案・収支予算案について審議。修正案が出され、再審議(文書理事会)することになった。

2005年度事業計画案・収支予算案は正会員に提出、意見を収集し最終案を決定する。

3. 定款改正について

文部科学省の指導の下に作成された、定款の一部改正案について、文部科学省からの指摘があれば若干の文言変更があるかもしれないという条件付きで審議。賛成5、反対0、棄権0で可決。

改正箇所は、名称変更(社団法人日本ハンググライディング連盟→社団法人日本ハング・パラグライディング連盟)にかかわる条項と、通常総会の開催回数(3月と6月→6月のみ)にかかわる条項。

4. 技能証規程の一部改定について

教員・助教員の更新講習会参加義務付けのため技能証規程の一部を改定することについて審議。賛成5、反対0、棄権0で可決。

改定箇所は、ハング、パラともに「教員検定員証の効力」の条項に、JHF主催の教員・助教員更新講習会を実施し受講証明を発行することを追加する。またモーターパラグライディング教員検定員証に関する条項がなかったため新たに加える。

5. 更新講習会規程の制定について

教員・助教員の更新講習会参加義務付けのため、更新講習会規程案について審議。賛成5、反対0、棄権0で可決。

制定が決定した上記規程は、受講義務、受講場所、受講証明、講義内容、更新申請等について定めており、2005年1月1日に施行する。(規程はJHFウェブサイトで。)

6. 2005年HG世界選手権選手選考について

2005年1月6日から19日までオーストラリアで開催されるハンググライディング世界選手権への選手派遣について審議。日本チームメンバーのみ賛成5、反対0、棄権0で決定。予算については継続審議とする。

□協議事項

- ・2004年度予算の執行状況
- ・個人情報保護法対策特別委員会の答申
- ・共済会からの要望
- ・東京海上との交渉

□その他

理事会の前と後に日本パラグライダー工業会の会員と懇談。工業会から「連盟事業及び体制に関する要望書」が提出された。

フライヤーの傷害保障はJHF共済へ

JHF共済は、フライヤーに必要な保障プランをお届けします。

ご承知のように、ハンググライディング・パラグライディングは、一般からはエクストリームスポーツと見なされ、保険会社も徐々に敬遠する傾向にあります。このためJHFは、ハング・パラの単独フライトとしては画期的な保障プランを、共済制度の形で実現しました。スクールで、都道府県連盟で、みんなで声を掛け合ってJHF共済にご加入ください!

年間掛け金は、任意保障プランで月割換算するとパラが217円、ハングが400円からと、保険会社の保険料と比較してたいへんお得です。次ページの申し込み用紙で、今すぐお申し込みください。ご不明の点はJHF共済会事務局(JHF事務局内)にお気軽にご相談ください。

2004年4月1日にスタートしたJHF共済会の支払実績は年末で353万円となりましたが、ロイズとの再共済契約により安定した給付を実現しています。

《共済金支払実績》

2004年4月1日からハング・パラの死亡事故が8件発生しました。これらの事故で、パラグライダー3名、ハンググライダー1名の方々に、合計で350万円のJHF共済金をお支払いしました。この4名の事故者の中にはJHF登録スクール以外で受講されていた方もいらっしゃいます。他の方々はフライヤー会員登録失効のため、お支払いができませんでした。

今後できるだけJHFフライヤー会員の皆



ロイズ関連シンジケート執行役員と下村共済会理事長。

様に加入していただけるよう努力してまいります。JHF共済への加入を機会に、安全を守る責任を再確認してハンググライディング・パラグライディングを楽しんでいただき、結果として事故の減少に繋がることを期待しています。また将来的には、共済掛け金の一部を事故対策費にあてることも考えています。

JHF共済は、JHFフライヤー会員のための共済保障プランです。皆様のご加入をお待ちしています。 JHF共済会

フライヤー保障制度の申込用紙

【保障制度の申し込み方法について】

申込み方法は、

- ①本用紙にご記入いただき、振込みの控えを添付の上、JHF共済会宛FAXして下さい。お振込みは、銀行若しくは郵便局窓口の用紙をご利用ください。
- ②共済会ホームページ（<http://www.flyaid.org> /JHFウェブにリンク）から入力し、コンビニ窓口でもお申込みできます。

【保障期間】

フライヤー会員有効期間に合わせて、1年としてください。但し中途加入の場合は、保障開始日（最短で入金日の翌日）からフライヤー会員有効期限までとするか、あるいは更に1年を追加してお申込みできます。3年会員の方は、1年会員と同じ要領で、1年若しくは3年を基準として加入することができます。なお共済保障制度に加入されていらしても、何らかの理由でフライヤー会員が失効している場合は、保障を受けられませんので、ご注意ください。

【掛金の算出】

フライヤー会員有効期限を5月4日と仮定します

例1（事前に）フライヤー会員有効期間に合わせて1年間加入する

年額掛金×1口ないし2口としてください。（保障開始日は5月5日になります）

例2 中途加入で、1年未満を加入する

保障開始希望日が6月10の場合は、保障期間は6月10日～翌年5月4日で11ヶ月（月単位で繰り上げ）となります。

月額掛金×11ヶ月と×口数としてください。

例3 中途加入で、1年を追加して加入する

保障開始希望日を12月15日とする場合

12月15日～5月4日プラス1年間、即ち5ヶ月（月単位で切上げ）プラス1年となりますので、月額掛金×5ヶ月+年額掛金としてください。必ず保障開始日（最短で振り込み日の翌日）をご記入下さい。

3年会員の方は、上記の要領で、1年、1年未満、1年未満+1年の申込みとともに、同じ要領で、最大3年迄申し込むことができます。

ご不明の点は、JHF共済会事務局まで、お気軽にお問い合わせください。

【JHF共済会振込口座】

銀行振込： 三井住友銀行 小石川支店（普）3550792 JHF共済会

郵便振替： 00180-7-500050 JHF共済会

振込票をお貼りください

JHF共済会事務局 行（FAX:03-5840-8312）

フライヤー保障制度 加入申込用紙

契約者名	(フリガナ)		申込日	年 月 日	
住 所	(フリガナ) 〒 ー		年 齢	歳	
電 話 番 号		eメールアドレス		性 別	男 ・ 女
フライヤー 会 員 登 録 番 号			フライヤー登録有効期間	年 月 日	
保 障 月 数	ヶ月間	保 障 開 始 日	年 月 日		

●パラグライダー用

【共済掛金集計表】

加入プラン	月額掛金(円)	×月数	×口数	合 計(円)
パラグライダー 死亡・後遺障害プラン	217円(年 2,600円)	× ヶ月	× 口	
パラグライダー 入院・通院プラン	508円(年 6,100円)	× ヶ月	× 口	
パラグライダー イントラ総合保障プラン	2,217円(年26,600円)	× ヶ月	× 口	
パラグライダー 共 済 掛 金 総 合 計				円

●ハンググライダー用

加入プラン	月額掛金(円)	×月数	×口数	合 計(円)
ハンググライダー 死亡・後遺障害プラン	400円(年 4,800円)	× ヶ月	× 口	
ハンググライダー 入院・通院プラン	1,258円(年15,100円)	× ヶ月	× 口	
ハンググライダー イントラ総合保障プラン	4,083円(年49,000円)	× ヶ月	× 口	
ハンググライダー 共 済 掛 金 総 合 計				円

※ハングの保障プランは、パラの保障も担保します。 ※イントラ保障プランに加入した場合は、その他のプランへの加入はできません。
 ※練習生保障プランまたはタンデム保障プランをご希望の方は、事務局までお問い合わせ下さい。

●お問い合わせ先 ●JHF共済会事務局 〒112-0003 東京都文京区春日2-24-11春日Shimaビル8階
 TEL:03-5840-8311 FAX:03-5840-8312 Eメールアドレス info@flyaid.org インターネットホームページ www.flyaid.org

@sky

空の情報いろいろありのページ、その名もアット・スカイ。
いつでも心は空の彼方というあなた、必読！ もちろん寄稿も大歓迎。
大会報告、エリア紹介、フライト自慢、名物フライヤー紹介、
JHFへの意見など、どしどし送ってください。
koho@jhf.skysports.or.jp FAX.03-5840-8312

@sky

NEWS

■世界選手権に日本チーム派遣

1月6日から19日まで、オーストラリアで開催されたクラス1のハンググライディング世界選手権に、JHFは日本チームを派遣した。メンバーは以下のとおり。

チームリーダー：郷田徹

パイロット：大門浩二、板垣直樹、大沼浩、外村仁克、永光秀明、野間靖弘

アシスタント：高橋明

ただいま速報をJHFウェブサイトに掲載中。

また、3月14日から27日まで、ブラジルで開催されるパラグライディング世界選手権に、ジャパンリーグ上位者を日本代表として派遣する。日本チームのメンバーはJHFウェブサイトに掲載。

■2005年HG日本選手権を遠野で開催

4月30日から5月5日まで、岩手県の遠野フライトエリアで、2005年ハンググライディング日本選手権 in 遠野(FAIカテゴリー2大会)を開催する。遠野での日本選手権開催は5年ぶり二度目。ゴールデンウィークは、河童伝説の息づく遠野に観戦に行こう。

■損害賠償請求訴訟は和解

1997年、高山エリアでの大会中に事故死した和泉恭子選手のご両親が、JHFに対して求めている損害賠償請求訴訟は、10月25日、東京地方裁判所で和解が成立した。

・JHFは亡くなられた和泉恭子選手に、あらためて心から哀悼の意を表明します。

・JHFは本件事故を教訓に様々な事故再発防止対策を強化します。

ご両親が上記を踏まえJHFに対する請求を

放棄されたため、JHFの金銭支払義務は認められず、ご両親とJHFとの間の債権債務関係がなくなり、本件訴訟は全面的に解決。「JHFの公認行為に対する法的責任」は問われない。
*終了まで掲載を控えました。

◆佐賀県でスカイレジャー・ジャパン

11月6日・7日に佐賀嘉瀬川河川敷で、スカイ・レジャー・ジャパン'04イン佐賀が開催された。JHFブースでは、佐賀県ハング・パラグライディング連盟の皆さんが、パラグライダーのシミュレーター体験で楽しさをアピール。(お疲れさまでした!)

■訃報■ 財団法人日本航空協会の利光松男会長が、11月9日に逝去されました。享年80歳。ご生前のスポーツ航空振興へのご尽力に対し、深く感謝申し上げます。

● H G 韓国大統領杯、日本勢が上位独占! ●

11月27日から29日までの3日間、韓国のハドンで「第5回プレジデントカップ・ハンググライディングチャンピオンシップ」が開催された。韓国ハング&パラグライディング協会の誘いに応えて日本から参加したのは、10月に日本選手権を勝ち取った外村仁克(和歌山県)をはじめ、大沼浩(茨城県)、永光秀明(千葉県・日本大学)、野口和基(京都府・京都大学)の4名。

ハドンは、ソウルから南に300km、プサンから西へ100kmの山岳エリア。2004年5月にパラグライディングアジア選手権の舞台となったフライトエリア。三カ所のテイクオフ場があり、メインのランディング場は谷の中の川岸にある。

初日は快晴。風が強くキャンセルかと思わ

れたが、43kmタスクが発表される。テイクオフ前はとてもいいリッジで、気持ちよく上がる。しかしゴールは1000m前後の山が隙間なく並ぶ谷底にあり、強いバレーウインドが吹き荒れている。韓国選手に負けじと頑張るが、知らないエリアではあるし、まだ初日。グライダーを壊しては元も子も無いと、日本選手は安全優先で着陸し、まずは韓国のリー選手に首位を譲った。みな強風に翻弄されゴール者なし。永光は安全に着陸できる場所を求めて一山越えた。

2日目も快晴。初日に比べ風がぐっと落ち一安心。日曜日なので韓国の学生サークルや地元のパラフライヤーが飛びに来て、賑やかになった。タスクはリッジで移動し最後は追い風でゴールする27.5km。辛抱強く粘っ

た永光は、ついに強いサーマルに当たり、他を振り切ってファーストゴールを決めた。その後、外村、大沼を含む6名がゴール。野口は惜しくも2kmショート。「ファーストゴールも嬉しいけど、韓国選手たちとゴールの喜びを分かち合えて、とても嬉しかった」と永光。

3日目は、リッジ伝いに尾根を2往復する31.8kmタスク。リッジでは上がるもののサーマルの気配はあまりない。そんな渋い条件で、また永光がファーストゴール。日本チーム全員がゴールし、野口は「ゴールだ!やったー今日は届いたぞー!」と喜んだが、なんと痛恨のセクターアウト。幻のゴールになってしまった。

3日間の総合成績で、大沼がみごと優勝。安定した強さで大統領杯を獲得した(さすがにノムヒョン大統領にメダルをかけてもらうことはできなかったが)。2位永光、3位外村と、日本勢が表彰台を独占して、韓国選手を喰らせた。

外村が「韓国の皆さんの歓迎ぶりに感激した。これからもっと日韓の交流をしたい。次は韓国パイロットを日本に招いて競技したい」と言うように、今回のような競技を通じて、日韓パイロットがともに刺激を与え合い、アジア全体のレベルアップにつなげたいものだ。(敬称略)

1位	大沼 浩	日本	2347点
2位	永光 秀明	日本	2257点
3位	外村 仁克	日本	2216点
4位	LEE Jung Dae	韓国	2108点
5位	CHOI Kun Soo	韓国	1795点
6位	PARK Gil Young	韓国	1719点
9位	野口 和基	日本	1157点

(写真:外村三千代)



韓国の競技人口は少なく、なんとなく長閑なテイクオフ場。



GPSでコース確認する日本チーム。中央の白い上着が野口。



左からPARK、外村、CHOI(眼鏡の人)、LEE、大沼、永光。



食事はみんなで賑やかに。何を食べても美味と、外村絶賛。

NEWS

◆スカイスポーツシンポジウム開催

日本航空宇宙学会主催、JHFほか航空スポーツ8団体協賛の、2004年スカイスポーツシンポジウムが、12月11日・12日に東京神田の日本大学理工学部駿河台校舎で開催され、参加者180人の盛況であった。

今回の講演24件のなかで関心度の高かったのは、斎藤紀氏(元JHF安全性委員会委員)の特別講演。テーマは2004年から鳥人間コンテストに設けられたフォーミュラクラス滑空機的设计法で、1時間の講演では物足りないほどの充実した内容であった。

このシンポジウムも10年目を迎え、年末の恒例行事となったが、最近ハング・パラに

関する発表がないのが寂しい。テーマは純学術的である必要はないのだから、次回はハング・パラに特有の滑翔法などについての発表を期待したい。(記:矢ヶ崎弘志)

◆風車と共存する霊石山エリア

発電用風車はフライヤーにとって頭の痛い問題。風力利用には賛成でも、フライトエリアに風車が建つとなると……

鳥取県の霊石山エリアにも風車建設計画が持ち上がった。同エリア友の会は1年ほど前から、風車を運用する鳥取県企業局と話し合いを続け、風車との共存を選択。10月19日、地元の河原町も加わった三者で「鳥取放牧場発電用風車が共存するための合意書」をかわした。合意書には「共存」を基本方針とすること、風車の影響が及ぶ空域をハンググ



企業局、河原町、友の会が共存の合意書をかわした。

ライダーやパラグライダーが飛ぶときには風車を止めることが明記された。「合意に漕ぎ着けたのは、企業局がこちらの意見を聞く姿勢を持ってくれたこと、25年間飛び続けてきたハング・パラを地元社会が認知し、観光資源のひとつと評価されたことが大きい。これが全国の風車問題解決へのヒントになればと願っています」と、友の会の片岡義夫会長。



新連載、日本標語コンテスト! そんじょそこらのコンテストじゃないよ、おにいさん。ハンググライダーにパラグライダー、お空をスイスイ飛ぶためにゃあ、ここんところが一番大事!とツボをおさえた標語を作ってもらおうってんだ。どうだい、おねえさんも作ってみたら? こりゃあ最高って標語を期待してるよ。選者は、知人ぞ知る片岡義夫だ。担当は松田保子。よしお・やすこ(漫才コンビか?)の標語話も、よく聞いてくれよ!

今号のP証!

準備はちゃっかり
チェックはしっかり

⑤「チェックはしっかり」はわかるけど、準備のちゃっかりってのは?

⑥ベテランパイロットはテイクオフに着いても、まだ上昇気流がなさそうやったらダラダラしてる。でも、ええ条件になった頃には知らん間に準備をしてて、パッパッと飛び出す。初級者が同じペースで、先輩が飛んでから自分も…と思っても、もう遅いんや!

⑦初級者は準備するのも初級だから。

⑧あたふたしてるうちにイントラから「はよせな、風強なるゾー」とか「空中混んでくでえ」「サーマルが強くなりすぎるっ」とせつつかれて、ますます焦りまくる。



⑨結局、準備もチェックもいい加減になっちゃう。

⑩準備って、セットアップだけやのうて、気象情報を入手したり、安全かつ積極的に飛ぶぞっという心の準備や、ストレッチとか体の準備も入るんや。

⑪だから、できる時にちゃっかりやっておくってわけですね。ベテランパイロットは言われなくても陰でそこそそとやってる(はず!?)。

⑫チェックも、ハーネスのベルトやカラビナロック、ラインからみやワイヤーのキンクだけでなく、イントラや地元パイロットに、今日のフライトのポイント、注意点を確認するのも大切。強風時のパラグライダーやったら、リバースライズアップ(クロスライズアップ)の振り返る方向や、すぐアクセスが踏めるか、なんかもね。もちろん無線の最終チェックも欠かさない。

⑬これだけのことを初級者がやるとなると、かなり気合い入れないとね。初級者の皆さん、ベテランの行動に騙されない(?)ように。ベテランの皆さんも、なめてかからないことが大切です。

今号の練習生!

強風もみんなで飛ばば怖くない!?

⑭そんなわけないでしょ!

⑮グライダーの性能の違いだけでなく、同じ機種でも翼面荷重の違いや、何よりコース取りやコントロール技術の差で、安全性は大きく違うよね。

⑯パラは特に強風に弱いですからね。

⑰36km/hのスピードが出るパラグライダーでも、同じ10m/sの風では飛ばない。ちょっとした気流の乱れでピッチアップしてしまうし、どうしてもブレイクコードを引かなくてはならない場合が出てくるから。

⑱ハングはどうなんでしょ?

⑲う〜ん。パラに比べたら強い風でも飛べるけど、ダブル(サーフェス)はフルロックしたらヨーイングが出たり、シングルは沈下はかなり大きくなるから、前には出るけど

ランディング場に届かへんこともあるんで、油断は禁物!

今号の練習生!

困った時のイントラ頼み
類似標語 触らぬイントラに祟りなし

⑳この二つのどこが類似なんですか?

㉑イントラを神にたとえているところ。

㉒そういえば、いる、いる、神様のように崇められてるイントラ。

㉓やっぱ、イントラの指導には絶対服従してもらわね。イントラも練習生から「神の声」と思われるような誘導せな。

㉔その反面、自分で判断できるようにならなきゃダメでしょ。

㉕当たり前やん。だから、「しょうもない質問すんな!」とイントラに怒られようが、祟り(?)があろうが、少しでもわからんことがあったら、どんどん聞いて、理解して、自分で判断する力を養わなあかん。イントラもそうなるようにもっていかな。

片岡 義夫(かたおか よしお) 1982年HG初飛行。86年からPG教員として活躍。元吉本興業番組制作スタッフ。専門学校講師、雑誌執筆者と多才。(株)ゼロ代表。

標語募集!

あなたも、覚えやすくフライヤーのためになるハング&パラグライディングの標語を考えてください。最優秀作を「今号のP証!」として、佳作を「今号の練習生!」として、選者の言葉とともに掲載します。

掲載標語の作者には図書券(千円分)をプレゼント。また「今号のP証!」作品は、いろいろな場面で使います。張り切ってご応募を!

□応募方法

標語と説明文をEメールかファクスまたはハガキで、JHF事務局JHFレポート標語係までお寄せください。締切りは2月28日(消印有効)。標語・説明文・氏名・住所・JHFフライヤー会員番号を明記してください。筆名で出したい方は筆名も。Eメールの場合、ファイル添付は無効です。

紹介します! JHSC登録グライダー

国内で使われるパラグライダーやハンググライダーは、JHF安全性委員会(JHSC)に型式登録されることになっています。今回は10月27日に登録された輸入パラグライダー4機種を紹介し、各機種名の頭についている数字は登録番号。☆はメーカー(ディストリビューター)からのおすすめ文句。

◇PI-912◇CALIPT' AIR式 VECTIS S型

DHV 2/翼面積(投影)21.82m²/アスペクト比(投影)4.47/飛行重量65~85kg/適正技能JHF-P証~

☆カリプトエアーのメイングライダー、DHV2取得のパフォーマンス機。ハンドリングが軽く、立ち上げが素直。特にサーマルのセンターリング時など、微妙な操作が可。DHV2ですが、P証から十分に乗れます。L・Mサイズは先に登録済み。評判がよく、息の長いグライダーです。

◇PI-913

◇SKY PARAGLIDERS式 BRONTES S型

DHV 2/翼面積(投影)21.79m²/アスペクト比(投影)4.11/飛行重量70~95kg/適正技能JHF-P証~

◇PI-914

◇SKY PARAGLIDERS式 BRONTES M型

DHV 2/翼面積(投影)23.64m²/アスペクト比(投影)4.11/飛行重量85~110kg/適正技

能JHF-P証~

☆スカイパラグライダーのDHV1-2機アティスの開発に先駆けて、このDHV2機ブロンテスが作られました。ベクティス、ワリビス、フィデスが評判を得ているアレキサンドル・ポーによる設計です。彼の設計はハンドリングに重点を置き、操縦しやすく、安全なグライダーを目指しています。アティス同様、2004年からカラーリングが新しくなりました。

◇PI-915◇SKY PARAGLIDERS式 ATIS XS型

DHV 1-2/翼面積(投影)20.23m²/アスペクト比(投影)3.9/飛行重量55~75kg/適正技能JHF-NP証~

◇PI-916◇SKY PARAGLIDERS式 ATIS S型

DHV 1-2/翼面積(投影)22.16m²/アスペクト比(投影)3.9/飛行重量65~90kg/適正技能JHF-NP証~

◇PI-917◇SKY PARAGLIDERS式 ATIS M型

DHV 1-2/翼面積(投影)24.09m²/アスペクト比(投影)3.9/飛行重量80~105kg/適正技能JHF-NP証~

☆スカイパラグライダーの最新機種が、このアティス、DHV1-2機(スタンダード機)です。DHV1-2機にしてはセル数が多い53セル。DHV1-2でもパフォーマンス機に近いものがあります。いろいろなマヌーバー操作をしても安定がよく、

安心して乗れます。2004年はSの文字を強調したデザインに一新。カラーリングは5種類から選択でき、またオプションのカラーも指定できます。

◇PI-918

◇BIO AIR TECHNOLOGIES式 BIONIC2 M型

AFNOR PERFORMANCE/翼面積(投影)23.40m²/アスペクト比(投影)4.6/5.1/飛行重量75~95kg/適正技能JHF-P証~

◇PI-919

◇BIO AIR TECHNOLOGIES式 BIONIC2 L型

AFNOR PERFORMANCE/翼面積(投影)26.10m²/アスペクト比(投影)4.6/5.1/飛行重量85~105kg/適正技能JHF-P証~

☆新生バイオエアーテクノロジー社が突然、鳥の形をしたバイオニック2を発表しました。自然の理にかなったデザインをグライダーに生かすべく、オリビエ・カルダラ氏(航空機エンジニア)が設計。安全をモットーに、性能の良いグライダーができました。車で言えば、でこぼこ道も自由に走るバギー車をイメージしています。乗りこなすのに少し時間がかかるかもしれませんが、興味深いグライダーです。

※最新登録機、プロト機搭乗者名はJHFウェブサイト、安全性委員会のページで。



VECTIS



BRONTES



ATIS



BIONIC 2

間違いさがし

■問題:左と右、同じイラストのようですが、よく見ると……。作&イラスト 松元千春
さて、間違いは何か所あるでしょう?(印刷ムラは間違いに入れません。)



正解者にプレゼント

問題の答えをEメールかファクスまたはハガキでJHF広報出版部パズル係までお寄せください。今回の賞品は図書券(千円分)です。正解者の中から抽選で3名の方にプレゼント。締切りは3月15日(消印有効)。答え・氏名・住所・JHFフライヤー会員番号を明記してください。Eメールの場合、ファイル添付は無効です。正解は次号で。

E-mail:koho@jhf.skysports.or.jp FAX:03-5840-8312

ハガキ:〒112-0003 東京都文京区春日2-24-11 春日Shimaビル8階
(社)日本ハンググライディング連盟

サ	イ	ク	ロ	ン	ル	リ
イ	キ	ー	ア	ポ	ロ	
マ	キ	リ	ツ	ジ	ン	
ル	キ	ン	ア	メ		
ヨ	グ	ウ	ク	ノ	リ	
バ	ド	キ	コ	ウ		
リ	ユ	ウ	ヒ	ヨ	ウ	ト
オ	カ	ナ	カ	ー	ブ	

前号クロスワードの答

ウインドシアアー
(シア=ウインドもOK)

正解者多数につき抽選で、宮城県の高橋周之さん、長野県の等々力かおりさん、北海道の峯岸哲三さんに図書券をお送りしました。おめでとうございます。

悠久の国インドのプレワールドカップ

松原 正幸

11月6日から9日までインドで開催されたパラグライディングプレワールドカップ。
久々に海外大会に出場した松原正幸が「渾沌が渦巻く国での幸せな日々」を報告する。

インドといえば、「カレーとターバン」くらしいのイメージしか湧かないが、いつか行ってみたいと思っていた。たまたま近所に住む友人のエディ・クマールが、「プレワールドカップがある」と教えてくれたのがすべての始まりだった。行こう!と決めてみたものの、未知の国インド。ま、なんとかかなるか、インド人のエディもいるしと、かなり安易な気持ちで旅立った。

ビールはまずいがインド最高!

空港内は真夜中のためか人はまばらで、静かな時間が流れていた。

デリー空港へ到着したのは、午前2時を過ぎた頃。長時間のフライトによる疲れと、ジェットラグが頭の片隅で仲良く手をつないでいた。うーん、眠い。しかしこのひと時が、インドにおける最初で最後の静けさだった。もっと事前にインドについて学んでおくべきだった。

旅の目的地であるビル村は、チベット自治区との国境近くにある。デリーから北へ400kmの場所。ここまでの移動だけで、インドの混沌と喧騒にタジタジにさせられていた。思うとおりに進まないのがインドなのだ、頭からどっぴりマサラを浴びせられ、四六時中耳元でマハラジャが踊っている様な気分になっていた。が、考えてみればカレーの国、インドである。スパイスが効いているのは当然。みそとダシ、わびさびの国ニッポンとは文化が違うのは当たり前のことだった。

けれどもビル村はそんな今までのインドとは様子が違っていた。

ビルの村から50kmほど西に、ダライラマ14世の亡命政府の地、ダラムサーラーがあ

る。だからなのか、この辺りの村々は、インドの地にありながら、チベット文化が濃厚なのだ。家々は鮮やかな原色の小さな旗を是为めかせ、道端には経文が張られたマニ・ラコーを回す老婆が佇む。小さな村の中心街には、紅に染まった袈裟をまとうチベットン仏教僧侶もいた。期間中お世話になる宿主もチベットンだ。日本人に近い顔立ちに親近感がわく。インド人はスパイスの効きは良いのだけれど、やはり落ち着くのはモンゴロイド系。少しずつ彫の深い顔とインド流儀を飲み込めた頃だったが、正直なところホッとした。

翌朝、海拔2400mのピリンエリアへ上がった。そこはヒマラヤ山脈がバックに聳え、眼

下には棚田が広がる絶景な場所。空気は澄みわたり、すべてが鮮やかに輝き、目がしびれる。先に流れた情報によれば6000mオーバーのコンディションもあるとか。酸素は大丈夫だろうか、と心配をするも、今年は例年より大幅に遅らせた11月の開催。いらない心配だった。

それでも100kmくらいのタスクは充分こなせるコンディションは、日本と比べるまでもない。フライト三昧の日々が続く。毎朝・夕飯はスパイスのきいたインド料理で腹を満たし、埃っぽい満天の星空を見上げ、明日のフライトにわくわくしながら宿へと歩いて帰る幸せな毎日。飛び良し、飯良し、ビールはまずいけどインド最高である。



テイクオフ上空から撮影。冠雪のヒマラヤ山脈が臨める。



インドの首都、デリーの町には当たり前のにら牛がいる。新宿に牛がいたら大変なことだが。



本物のコブラを使った蛇使い。デリーコミックショー? お金を請求されたので走って逃げた。奥の尾根のピーク下がテイクオフ。ゴール上空から撮影。



競技前に安全祈願のお祈り。中央がヒンディー教のバラモン僧侶。左端は前年の覇者ニコライ。



開会のセレモニーでは、選手に歓迎のレイが掛けられた。なんとなくハワイアンな雰囲気。

誰もニコライを止められない

こんな最高な場所を占有できるはずもなく、続々と各国からパイロット達がピリンエリアに集まりだし、様々な言語が飛び交い始める。いよいよ4日間の試合が始まる。

レース初日。タスク1はウォームアップの71kmレース。スタートから快調にぶっ飛ばすニコライを追いかける形で始まった。淡々とサーマルを乗り継ぎ、かっ飛ばし、じりじりっと後続を引き離すニコライには、「巧く飛ばすなあ」と感心する。自分が知る限りでは、95年に北九州で開催した世界選手権にロシア代表で出場していた。ずっと現役でいるのは格好いい。ただのウォッカ好きのオヤジではないのだ。

ニコライはミスのないフライトでそのままトップでフィニッシュ。ランディング後にはガッツポーズならぬ、ニコライポーズで決めていた。腹の出たオヤジながらあっぱれだ。

2日目。ウォームアップタスクが済み、ダラムサーラータスクか？と思いきや、手前で戻る100kmレース。タスク距離とは裏腹に、渋いコンディションで序盤から苦戦することになる。ひとつのスタックも許されないほど、時間的にタイト。しかも雲底は上がらず。それでもチビチビと駒を進めると、山頂付近に誰か引っかかっている。近づくと、樹木の脇に横たわったパイロットを発見できた。大声をかけるが、ピクリとも動かない。すでに2名ほどのパイロットが救助のために、キャノピーをひとつ広げられるかどうかのスペースに降りている。ただならぬ緊張感が漂っていたが、自分はそこへ降



ティクオフへは3人組でチャータータクシーで上る。



着陸すると瞬刻に子供が集まり人気者気分を味わえる。

りることもゴールすることもできなかった。この日はニコライとイギリスのジェミー、2名のみのゴールだった。うーむ。むむむ。

昨日の事故はイギリス人のフリーフライヤーだった。どうやら重傷だったらしい。このことから、大会のオーガナイズをしているヒマーチャルツーリズムから、大会中のフリーフライトを禁止するとの発表があった。飛んだら訴えるというのだ。これには競技ディレクターのミュリローは憤慨し、選手全員を巻き込んでの大騒動に発展した。「フリーフライヤーを飛ばさないなら選手も飛ばない」を主張し、結局大会オーガナイズ側は折れ、タスクは有効なのか？という疑問を抱きつつも、3本目のタスクは76.6 kmのレース。やはりこの日もニコライがトップでゴール。誰もニコライの勢いを止められない。

最終日は最短の60.3kmのタスク設定。表彰式があるからだ。今日こそはニコライを抑えてやろうと思うも、結局はすべてのタスクでニコライがトップを独占してしまう。なんだか大相撲の朝青龍とダブって見

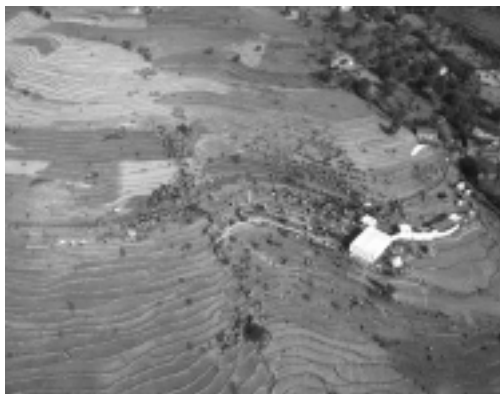
えた。うーむ。

こうして去年に引き続き、ニコライがオール1000点で完全優勝を果たし、インドのプレワールドは終了した。

後日聞くとところによれば、帰国後1ヶ月以上に渡って下痢に悩まされた人が数名いたとか。自分にとっては毎日幸せな時を過ごせたインドであったが、感じ方は人それぞれ。そもそも2週間ほどの旅でインドのすべてを理解できるはずもない。インド＝ターバンのイメージは払拭されたが、カレーが旨いのは間違いではなかった。

混沌が渦巻く悠久の国「インド」は、きっと来年もプレワールドを開催してくれることだろう。しかし同じメンツが何人エントリーするだろうか。

松原 正幸(まつばら まさゆき) PG歴10年。99年PG世界選手権日本代表。最近競技に復帰。04年PGアジア選手権ではチームリーダー。JHF事務局勤務。



ピル村郊外の棚田に設置されたゴールには、人、人、人！

成 績

1位	SHOROKHOV Nikolay	ロシア	4000点
2位	MESSENGER Jamie	イギリス	3827点
3位	ZAENGLEIN Brett	アメリカ	3703点
4位	ULRIC Jessop	イギリス	3652点
5位	後藤 雄大	日本	3484点
6位	WITTICH KY Raymond	オーストリア	3468点
7位	高木 望	日本	3435点
12位	星 利彦	日本	3301点
13位	松原 正幸	日本	3245点
14位	KUMAR Adie	インド	3226点
28位	寺尾 有貴	日本	2848点
33位	川口 竜太	日本	2658点
35位	川上 賢一	日本	2594点



左から、2位のブレット、1位のニコライ、3位のジェミー。次回は誰がこの場に立つのだろうか。



ニコライとインド枠入賞者。左から、日本在住のエディ(2位)、アジェ(1位)、デヴ(3位)。

空の声

新設の投書欄です。

ハング・パラグライディング界を見渡して、率直なご意見をお寄せください。ご意見はJHF事務局のJHFレポート投書係まで、郵送/Eメール/FAXで。氏名・フライヤー会員番号も忘れずにご記入ください。

パラグライダーはラジコンか？

阿部郁重(JHSC委員長)

パラグライダーの事故の中で、しばしば無線機のトラブルに起因するものが指摘されている。

しかし自分自身の判断で飛べないフライヤーを中高度もしくは高高度から無線機で誘導して飛行させるというのは問題だと思う。このような状態では、フライヤーは指示されるままに操作しているのであるから、ラジコンのサーボの代わりをしているに過ぎない。

トレーニングというのは、結局、フライ

ヤーの判断力を養うことである。無線機を緊急避難的に補助器材として使うことの有用性は認められるが、それに頼りきってしまったのでは判断力の養成という点からはマイナスである。

春には春の風が吹き、秋には秋の風が吹くのであるから、少なくとも1年間、できれば2～3か所のエリアで、誰が見ても安心できる離着陸ができるだけの判断力を身につけてから、中高度のフライトに挑戦すべきではなかろうか。

ノーコンでおっこっちゃった、では済まないのである。

大会報告

第16回ゼロカップ

2004年10月23日・24日

鳥取県八頭郡河原町霊石山フライトエリア

[総合]

1位	成山 基義	大阪府	1000点
2位	森山 政男	高知県	701点
3位	真鍋 務	兵庫県	700点
3位	谷本 修	大阪府	700点
5位	栗本 章弘	大阪府	609点
6位	縄田 裕之	鳥取県	487点
6位	美甘 頼昭	鳥取県	487点
6位	伊沢 正純	鳥取県	487点

★快晴の初日、午前中は3m/s程の北の風が吹き数名がテイクオフしたが、日中は強風のため一時待機。その後、全員がフライトして競技は成立した。2日目、天気は良いものの南の風が吹き、14時にクローズ。よって1日目の結果で順位が決定した。

前回同様、SPS大会を兼ね、成山選手がSPSチャンピオンに。「遠くへ行きたいクラス」は新しい試みで、初級フライヤーも楽しめた大会だった。 [報告:片岡義夫]



賞品の自転車(火花装備)でウイニングラン。

米・こめカップ

2004年10月2日・3日

福島県エアパーク三ノ倉高原

[エキスパートクラス]

1位	藤崎 昌伸	長野県	421点
2位	仲田 孝宏	千葉県	362点
3位	栄城 徳彦	山形県	359点
4位	加藤 靖裕	千葉県	328点
5位	小島 美香	福島県	317点
6位	小名木伸枝	長野県	294点
7位	呉本 吉植	長野県	290点
8位	松村 守	新潟県	288点

[オープンクラス]

1位	川村 寛悟	青森県	608点
2位	森 一紘	福島県	594点
3位	龍崎 昇	千葉県	574点
4位	丸山 智聖	福島県	551点

★今年もたくさんのお米(500kg)を用意して行われた米・こめカップ。エキスパートクラス39名、オープンクラス14名、計53名の参加者で激しい米取り合戦が繰り広げられた。初日は渋いコンディションだったが、エキスパートクラスは60分のセットタイムと2ヶ所のシークレットパイロンを設定、オープンクラスは15分のセットタイムと2ヶ所のシークレットパイロンで競技が行われた。2日目は朝から雨でキャンセルとなった。

[報告:昆野克昭]

2004スカイグランプリin ASO

2004年10月9日～11日

熊本県阿蘇町兜岩及び大分県玖珠町伐株山

[総合]

1位	上妻 研介	広島県	1000点
2位	児島 彰	広島県	859点
3位	斎藤 雅一	静岡県	851点
3位	若山 朋晴	静岡県	851点
5位	植田 真吾	岡山県	846点
6位	花田 英仁	山口県	825点
7位	梶原 勝則	福岡県	799点
8位	稲見 祐二	愛媛県	743点

[女子]

1位	高藤とよ子	大阪府	490点
2位	御手洗美智子	山口県	421点
3位	宗像 良香	山口県	43点

★初日と2日目は台風の影響で雨模様だったり、風向きが悪く、フライトができなかった。最終日は晴れ、風向の関係で伐株山に移動。午前中はサーマルが渋く、ダミーもなかなか高度が稼げない。昼過ぎから何とかダミーが上がり始め、12時45分にゲートオープン。20.3kmのスピードランを行う。一時上がりが渋くなった時はタスク不成立になるかと思われたが、グランドサーマルにヒットし雲底まで上げることができ、何とか成立した。 [報告:岡 芳樹]

西日本学生選手権大会2004 in 豊田

2004年11月27日・28日

山口県豊田町華山エリア

★両日とも風が強く、残念ながら大会は中

止になった。初日は華山から10kmほど離れた保木山でフリーフライト。絶好のサーマル日和で華山ランディング場まで飛んでくる選手もいた。2日目は保木山でミニ大会を行い、数多くのグライダーが秋空に舞う一日となった。正式な競技はできなかったが、選手全員がフライトでき、充実した2日間となった。 [報告:大石正明]

平和カップ2004 in 広島

2004年11月21日～23日

広島県神ノ倉・荒谷山エリア

[総合]

1位	梶原 勝則	福岡県	2000点
2位	小島 章弘	神奈川県	1536点
3位	足蒨 良彦	広島県	1487点
4位	田原 一信	山口県	1426点
5位	土橋 誠	福岡県	1421点
6位	川村 真	福島県	1414点
7位	佐古 隆司	広島県	1408点
8位	高藤とよ子	大阪府	1317点

[女子]

1位	高藤とよ子	大阪府	1317点
2位	倉窪ゆかり	滋賀県	1292点
3位	御手洗美智子	山口県	681点
4位	八子 文恵	愛知県	664点

★3日とも天気は良く、1日目は強風のためキャンセルとなったが、2、3日目は成立した。大会運営も大きな問題はなく成功に終わった。2タスクとも、梶原選手がトップで2000点満点の完全優勝を果たした。

[報告:児島 彰]

ハングルひとくち講座 [4]

ハングルまる暗記作戦、最後のミッションです。言語が異なっても、空を飛ぶ者同士は一緒にフライトすれば気持ちに通じる……とはいえ、相手の言葉を憶えるのは、おつきあいの基本。ワンフレーズでも暗記して使ってみましょう。あとのことは関知しませんが……。

講師は、金要燮(キム・ヨソブ)さん。93年に初来日、現在は東京の外語専門学校で勉学中。パラグライディング歴14年。時間ができると足尾山に飛びに行きます。

とてもエキサイティングの巻

私はここで飛ぶのは初めてです。

나는 여기서 비행하는 것이 처음 입니다.

(ナヌン ヨギソ ビヘンハヌン ゴシ チョウン インミダ)

飛ぶ前に登録が必要ですか？

비행하기 전에 등록이 필요 합니까?

(ビヘンハギ ジョネ トンロギ ビリョ ハンミカ?)

彼女／彼の次にテイクオフします。

그녀/그 다음에 이륙 합니다.

(グニョ/グ ダウメ イリュク ハンミダ)

とてもエキサイティングなフライトでした。

아주 신나는 비행 이었습니다.

(アジュ シンナヌン ビヘン イオッスンミダ)

あなたと一緒に飛べて楽しかったです。

당신과 함께 비행할 수 있어서 즐거웠습니다.

(ダンシンカ ハムケ ビヘンハルス イッソ スルゴウォッスンミダ)

日本に飛びに来てください。

일본으로 비행하러 오세요.

(イルボンオロ ビヘンハロ オセヨ)

平和カップ2004 in 広島

2004年11月21日～23日

広島県神ノ倉・荒谷山エリア

[総合]

1位	加藤 実	神奈川県	1521点
2位	郷田 徹	東京都	1320点
3位	砂間 隆司	茨城県	1242点
4位	川浪 崇	石川県	1079点
5位	橋本 正憲	福岡県	908点
6位	大塚憲一郎	福岡県	885点
7位	江口 博昌	山口県	816点
8位	大田 祐輔	広島県	657点

[女子]

1位	松浦 彩乃	茨城県	294点
2位	武田 伸子	広島県	263点

★ここ数年、不成立が続いた平和カップだが、今回は3日間すべて成立。

1日目は神の倉山で北西強風を使った32kmリッジレース。後半は風向きが北に変わりゴールは出ず。地元広島の崎山選手が24kmでトップに。2日目は荒谷山から28kmのタスク。神の倉山で上げ直すことができた加藤、郷田両選手がゴール。3日目は荒谷山から18kmのスピードレースで6名がゴール。2日目と3日目を制した加藤選手が優勝。

恒例となった夜の大宴会と併せて今年も大いに盛り上がった。

[報告:中川大志]

カレンダー

図:開催場所 国:連絡先 J:ジャパンリーグ対象大会 S:SPS対象大会 H:ハンググライダーシリーズ対象大会

2月

MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28						

3月

MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

4月

MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

ハンググライダー関西選手権2005(HS)

2月10日～13日 国和歌山県紀ノ川フライトパーク 国大会実行委員会 外村三千代
TEL&FAX:0736-78-3193

2005板敷山スプリングフライト

3月17日～21日 国茨城県八郷町板敷山
大沢 豊 TEL&FAX:0299-43-6952
E-mail:bumpyosawa@ybb.ne.jp

教員更新講習会 一般フライヤー会員の参加、大歓迎!

1月27日～30日、JHF教員更新講習会を実施します。教員・助教員のほか、一般フライヤー会員も無料で参加できます(机上講習のみ)。参加希望の方はJHF事務局までFAXまたはEメールで申込みを。定員になり次第締切り。講習内容は、事故分析による事故再発防止について、安全指針について、

2005年ハンググライダー

日本選手権 in 遠野 (FAIカテゴリー2)

4月30日～5月5日 国岩手県遠野市遠野フライトエリア 国大会実行委員会事務局(遠野市民センター社会教育課スポーツ健康室内 担当:佐々木)
TEL:0198-62-4413 FAX:0198-62-2789
E-mail:hon@echna.ne.jp

緊急用パラシュートについて。

- ・27日(木)午前10時～午後5時
埼玉県富士見市民文化会館「キラリふじみ」
<http://www.city.fujimi.saitama.jp/culture/>
- ・29日(土)午前10時～午後5時
東京都新宿スポーツセンター
<http://www.regasu-shinjuku.or.jp/>

United, we stand.

日本学生フライヤー連盟

新年明けましておめでとうございます! 早くも1年が過ぎてしまい、気づけば2005年! 去年を振り返ってみると、僕はパラフライヤーですが、ハングを体験したり見る機会がたくさんあって、ハングの魅力もかなりすごいと思いました。そして、面白く充実した年をフライヤーとして過ごせたと実感しています。学業ではネバーランドへのチケットをゲットしてしまいましたが。皆さんは楽しかったですか? 1年生にはハング・パラに出会ってどっぷりはまってしまった人もいないのでしょうか? フライヤーとしての目標をたてた人もいないのでしょうか? そうであるなら、とてもうれしいことです。今年もいろいろな機会が出て、競い合い、一緒に盛り上がりましょう!!

■イベント

□2月予定

HG関西学生選手権 和歌山県龍門エリア
パラフェスタ 未定

□3月予定

HG学生選手権 茨城県八郷町足尾山
または八郷町板敷エリア

■サークル紹介コーナー

今回は冬ということもあり、今年から学連に加入することになった最北のサークル、室蘭工業大学のFlying Piratesです!

北海道で空を愛し、集まったのが私たち室蘭工業大学フライングパイレーツです。

今年からメンバーの数人が東北学連に加盟しました。これからよろしくお願ひします。本州と陸地が離れているので、金銭面や時間の関係でなかなか大会や合宿に参加できないとは思いますが、全国に仲間をたくさん作りたいので、できる限り外に出たいと思っています!

フライングパイレーツは、10年ぐらい前から空を飛びたいと思う人が集まり出してサークルを結成し、今では30人とちょっとの大家族です。パラ以外でやりたいことが違う人達もいて、それぞれの道をひた走っていますが、それでも新歓などの行事をやる時にはやります! それぞれがそれぞれの立場で、サークルのこと、パラのことを考えているサークルです。

活動は、土・日・祝日にはルストのスクールにお世話になりながらフライトをし、平日の授業後やルストのコンディションが悪い日には、大学近くのイタンキ浜という海岸でひたすらグラハンをしています。一般の方々に混じり、パラの話から通常では考えられないような突飛な話まで、様々なことを見て聞いて、得られるものがたくさんあります。

ルストでは南に洞爺湖、さらには噴火湾、西を見れば羊蹄山、その先には日本海と、雄大な景色を360度パノラマで見渡しながらフライトしています。日本海と太平洋、なんと大海を二つ同時に見られるんです! 北海道の空から見下ろす景色は他では味わえないもので、ぶっ飛びでも自然の雄大さに感動できます。冬になると辺り一面真っ白に



興味があることは何でもする! フライングパイレーツ。

なり、別世界で飛んでいるようです。

パラができないときには、手作りうどんやスープカレーを作ることから、ビール工場をハシゴしたり、2日間という短期間で道東道央函館を愛車であるぼろぼろのパン(通称パラカー)で夜通しノンストップで巡ったりと、興味のあることなら若さとノリと勢いで何でもします!

春は色とりどりの花々、夏は深緑、秋は鮮やかな紅葉、冬は白銀の世界、四季折々の北海道をまるまると堪能! いつも新鮮な景色や出来事に会えます。ついでに食べ物も美味! 北海道に来る機会がありましたら是非飛びに来てください! 一緒に北海道の広い大地を堪能しましょう!

■学連への連絡は……

「学連に加盟したい!」や「もっともっと学連のことを知りたい!」などといった学連への意見や応援メッセージはこちらまで。

川村寛悟(弘前大学3年)

e-mail:soranotunagari@msn.com

空のかお

その58

中村 貴美子さん

(ナカムラ キミコ)



ご主人の淳一さん、愛犬こえもんと一緒に。

中村さんは鹿児島県の魚野フライトエリア等でフライトしているパラフライヤーです。パラを始めたのは3年前。タンデム体験で感動して、今はすっかりパラにはまっています。ちなみにこの時のタンデムのパイロットが、現在は中村さんのご主人。なんともロマンチックなフライトだったことでしょう。

平日は仕事のため、主に週末にフライトしています。初飛びの感想は「何も覚えてません。ただインストラクターに言われるがままに操作であったという間でした」。

11月にパイロット証を取得。今まではほとんどホームエリアでしかフライトしたことがなかったので、これを機に県外のエリアでも飛びたいとのこと。「いつも山の上ばかりなので、眼下に街が見えるエリアでフライトしてみたいです」と中村さん。

去年はご主人といっしょにニュージーランドのエリアでフライトされてきたそうです。「スケールが日本とは全然違いました。もう一回行ってみたいです。お金と時間があつたら、ヨーロッパの方のエリアにも行ってみたいです」。

中村さんにとってパラの魅力とは「足元に何もなくて日常とは世界が全く違うので、仕事などの悩みがちっぽけに感じる」と語ってくれました。今後の目標は「安全にフライトできたらと思っています」。

これからも目標通り、安全に楽しいフライトを心がけてください。

(JHF広報出版部:矢野玄一郎)

連絡ノート

JHF

フライヤー

■2004年度3月総会の傍聴について

2005年3月10日(木)、東京都羽田空港ターミナルビル「ビッグバード」にて2004年度3月通常総会を開催します。傍聴を希望される方は、2月28日(月)までに事務局にご連絡ください。

■練習生技能証も写真付きに

練習生技能証カードにも顔写真をプリントできるようにしました。ご希望の方は、写真を申請書に貼付してください。写真はカラーで天地30mm×左右24mm。無帽、無背景のもの。集合写真・スナップ・サングラス着用は不可です。

■大会・助教員検定会等を計画中の皆様へ

公認・後援大会、助教員検定会、検定委員の申請は、開催日の60日前までをお願いします。期限を過ぎると諸手続きが間に合わないことがあるので、ご注意ください。

■フライヤー会員証はハサミで切り取り

皆さんにお届けしているフライヤー会員証のまわりにはミシン目が入っていますが、ハガキから切り取る時は、なるべくハサミをご利用ください。

■フライヤー会員証が届かない場合

フライヤー会員登録の更新の際、会費振り込みから2週間以内にお手元に会員証が郵送されない場合は、できるだけ早く事務局にご連絡ください。

□JHF事務局

〒112-0003東京都文京区春日2-24-11

春日Shimaビル8階

(社)日本ハンググライディング連盟

TEL:03-5840-8311 FAX:03-5840-8312

Eメール:jhf@skysports.or.jp

■JHFレポートであなたの意見を!

JHFレポートに投稿欄を設けました。ハング・パラグライディング全般、JHFに対するご意見ご要望などを、上記の事務局「JHFレポート投稿係」までお送りください。投稿の際は必ず氏名・電話番号等の連絡先を明記してください。

■情報配信サービスをご利用ください

JHFからフライヤーの皆さんへ、電子メールによる情報配信サービス(サマーネット)をご存知ですか。様々な情報を、ご指定のメールアドレスへ配信します。JHFウェブサイトから登録を。

JHF共済事務局からのお知らせ

◆フライヤー会員登録期限切れにご注意!

JHFフライヤー会員登録の有効期限が過ぎていると、共済会保障プランが適用になりません。更新手続きをお忘れなく。

10月~12月のパイロット証取得者

(敬称略 数字は認定日)

パラグライディング	11/2 服部 努	11/18 小森 勝之	12/2 田中 博志	12/22 尾形 研二
10/1 滝沢 秀樹	11/2 戸室 直子	11/18 安岡 清美	12/3 武田 研	12/27 石井 利典
10/1 株本 哲也	11/2 橋 敏明	11/18 石賀 雅人	12/3 岸 健二	
10/5 東 信義	11/2 大溝 勝彦	11/18 大木 利博	12/3 仙石 敏男	ハンググライディング
10/5 佐藤 充弘	11/2 和馬 竜二	11/18 平野 竜二	12/6 今田 寛	11/16 細川 正幸
10/5 橋本 賢治	11/2 上川 信治	11/18 黒田 亜紀	12/6 高原 秀昭	11/16 白井秀二郎
10/5 渡辺 健史	11/2 浜地 武久	11/18 矢代 将奇	12/6 岡崎 直哉	11/16 長田 和美
10/5 吉田 昌弘	11/2 徳田 了	11/18 中島 和義	12/9 山田 英子	11/16 服部 正志
10/14 南 勝博	11/2 松本 大字	11/18 木村 早苗	12/9 村上 邦博	12/9 岩崎 貴裕
10/14 阿部 俊一	11/2 木村 洋	11/18 太田 嘉明	12/14 相原 欣也	12/9 小林 健一
10/14 土居 博志	11/2 小沢 恭子	11/18 清水 昭	12/14 池本 みさ	12/27 原田 知明
10/15 阿部 謙司	11/2 伊藤 行雄	11/18 青柳 浩司	12/14 坂本 敦司	
10/15 園田 史朗	11/2 山口 厚	11/18 鶴留 重弘	12/14 中元 利一	モーターパラグライディング
10/19 横溝 史子	11/2 大場 洋水	11/19 谷岡 真一	12/14 康 透	10/14 石井 誠悦
10/19 舟橋 義久	11/2 龍崎 昇	11/24 津ヶ谷義雄	12/14 鈴木 長	10/14 成沢 健二
10/19 山口 翔	11/8 石井 隆和	11/25 西井 昭一	12/14 森本 隆二	10/14 田村 宏
10/19 小林 耕之	11/8 依田 卓	11/25 賀口 隆二	12/15 岡部 清尚	10/14 宮崎 明生
10/20 中野 宏紀	11/11 齋藤 みどり	11/25 鳥谷尾真道	12/16 加藤 綾	11/8 中山 晴生
10/21 松下 康裕	11/11 中村 宏昭	11/26 三澤 綾子	12/17 黒木 徹	11/16 高田 厚生
10/21 牧野 弘宜	11/11 中村 貴美子	11/29 高崎 陽介	12/17 植木 孝一	11/18 高橋 芳孝
10/21 山田 善一	11/11 斉藤 光一	11/29 橋本 由美	12/17 加藤 薫	11/18 藤原 英嗣
10/21 高松 善一	11/11 徳田 拓哉	11/29 加藤 徹	12/22 高橋 武志	11/22 原崎 達哉
10/26 岩崎 敏一	11/11 香田 真樹	12/2 清水 敏之	12/22 高橋 充弘	11/24 野崎 芳雄
10/26 犬塚 麗子	11/16 西 真由美	12/2 土井 靖生	12/22 蓮池 俊二	12/2 高橋 鉄夫
10/26 杉野 忠	11/16 井口由起子			
10/26 田中亜希子	11/16 斉藤 和美			
10/27 津澤 克彦	11/16 山田 誠			
10/27 山本 直哉	11/18 松井 寿			
10/29 尾久 和丈	11/18 田中 誠一			

□新パイロットの皆さん、おめでとうございます。パイロット証を取得された方のお名前と認定日は、いつもこの欄に掲載しています。

12月31日までのフライヤー会員登録数

登録年数	9月30日現在の有効登録数	10月の登録数	11月の登録数	12月の登録数	12月31日現在の有効登録数
1年		504	350	232	
3年		313	174	193	
合計	16,480	817	524	425	16,145

10月~12月の技能証発行数 ()内の数字は発行数中の女性の人数です。

ハンググライディング					パラグライディング				
技能証種類	10月の発行数	11月の発行数	12月の発行数	12月31日までの発行数累計	技能証種類	10月の発行数	11月の発行数	12月の発行数	12月31日までの発行数累計
練習生A証	19(5)	22(6)	28(3)	12,494	練習生A証	107(37)	63(13)	65(21)	50,013
練習生B証	15(2)	28(8)	20(2)	12,043	練習生B証	48(12)	53(9)	52(14)	44,392
練習生C証	3(0)	7(1)	12(0)	7,234	ノービスP証	21(7)	38(9)	58(17)	12,046
P証	0	4(0)	3(0)	5,129	P証	28(6)	51(10)	28(3)	20,989
補助動力証	0	0	0	34	補助動力証	0	0	1(0)	875
XC証	3(0)	0	1(0)	1,255	XC証	4(0)	13(1)	6(1)	4,459
タンデム証	1(0)	0	1(0)	56	タンデム証	6(0)	19(2)	19(1)	1,029
モーターパラグライディング									
P証	4(0)	6(0)	1(0)	307					

●編集を終えて

2004年は大きな自然災害があつちでもこちでも……フライヤーの皆さんは、各地のフライトエリアは、深刻な被害を被ることなく無事に新年を迎えられたでしょうか。自然の力の凄まじいこと!それに翻弄される人間のちっぽけなこと!そもそも自然を「相手」と考えるのは間違っています。新年は平和な年になりますように。 JHF広報出版部 松田保子

最新情報は JHF ウェブサイトをご覧ください。

<http://jhf.skysports.or.jp/>

JHFレポート 2005年冬号 (No.186)

発行日 2005年1月20日 定価10円
 発行 社団法人 日本ハンググライディング連盟
 〒112-0003 東京都文京区春日2-24-11春日Shimaビル8階
 TEL:03-5840-8311 FAX:03-5840-8312
 E-mail: jhf@skysports.or.jp
 編集 JHF事務局広報出版部
 印刷 日本印刷(株)

この印刷物は再生紙を使用しています。